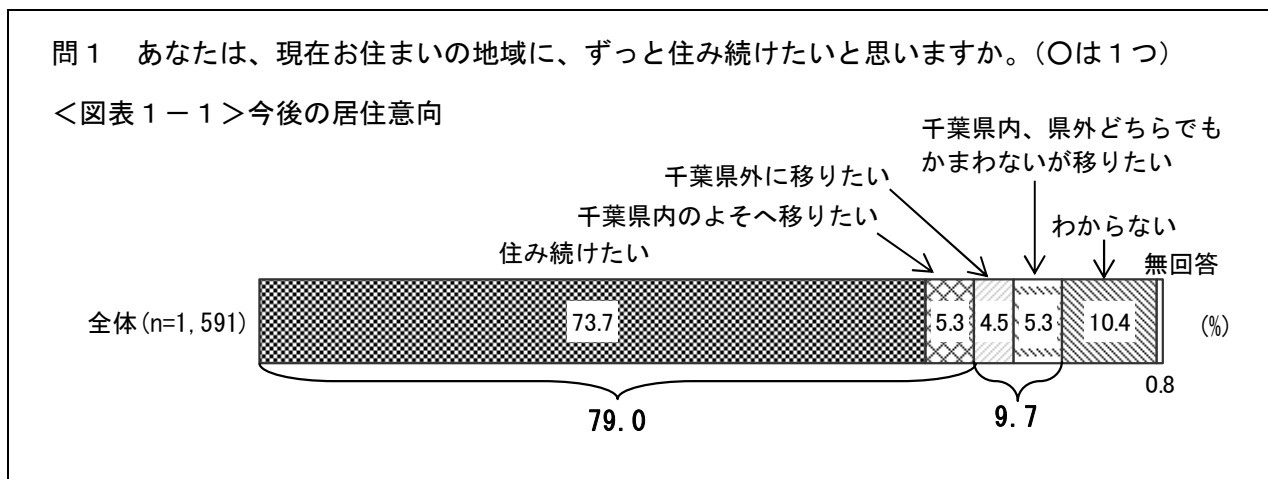


調査の結果 調査結果の解説

1 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

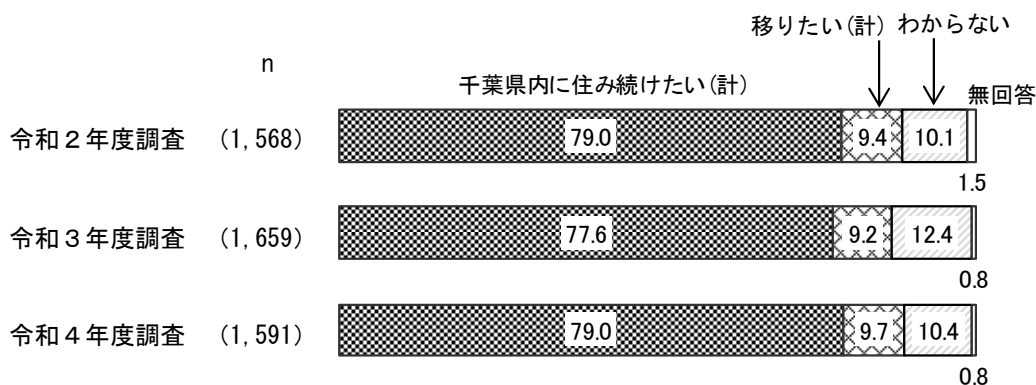
◇『千葉県内に住み続けたい（計）』が約 8 割



現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(73.7%) が 7 割台半ば、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(5.3%) を合わせた『千葉県内に住み続けたい (計)』(79.0%) が約 8 割となっている。

一方、「千葉県外に移りたい」(4.5%) と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(5.3%) を合わせた『移りたい (計)』(9.7%) が約 1 割となっている。(図表 1-1)

【参考】 令和 2 年度・3 年度の同様の項目による調査結果との比較 (単位: %)



【地域別】

地域別にみると、「住み続けたい」は“印旛地域” (80.4%) が 8 割で高くなっている。

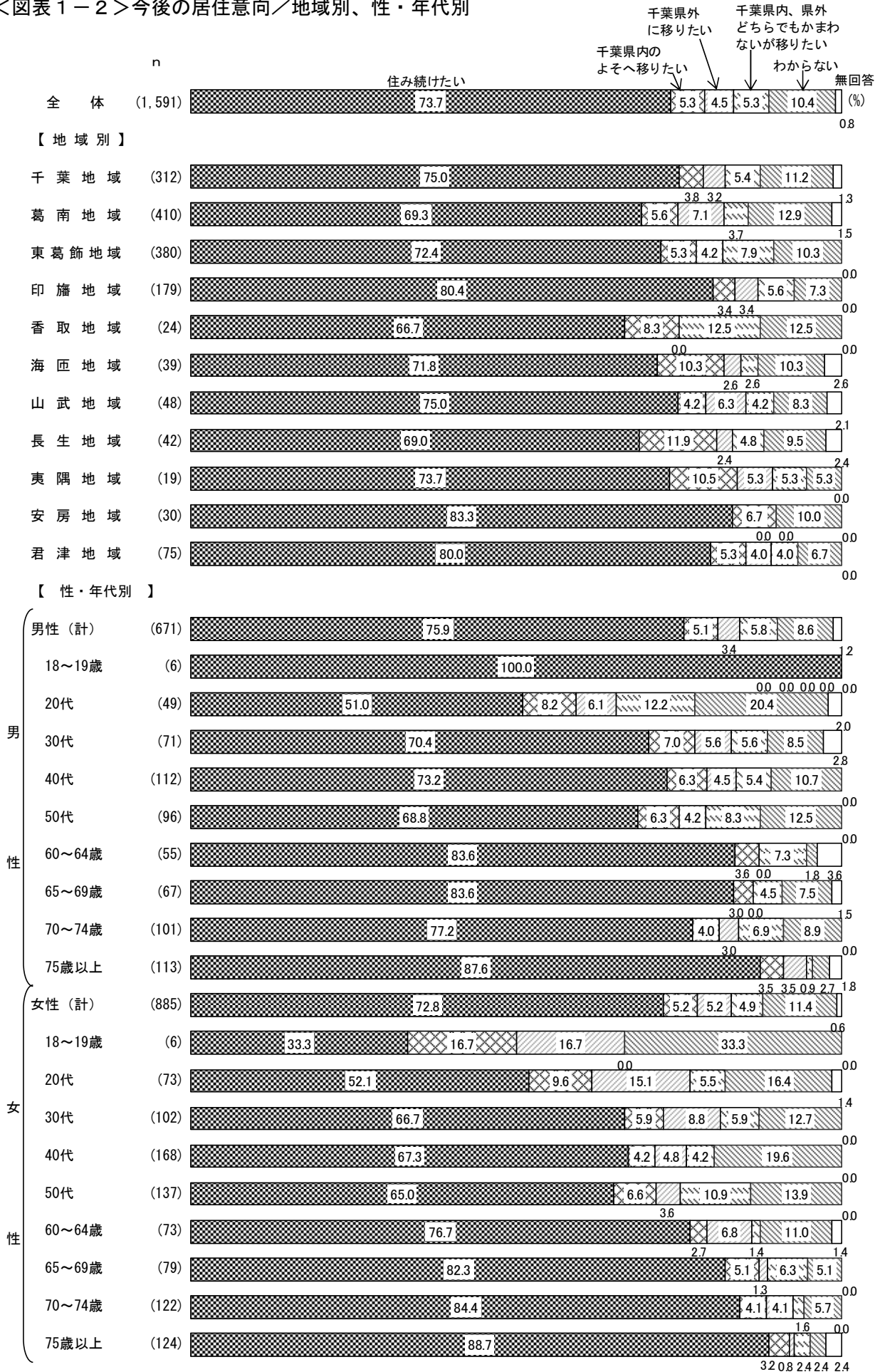
(図表 1-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『千葉県内に住み続けたい (計)』は男性の 75 歳以上 (91.2%) と女性の 75 歳以上 (91.9%) が 9 割を超え、女性の 70~74 歳 (88.5%) が約 9 割で高くなっている。

一方、『移りたい (計)』は女性の 20 代 (20.5%) で 2 割、男性の 20 代 (18.4%) で約 2 割と高くなっている。(図表 1-2)

<図表1-2> 今後の居住意向／地域別、性・年代別



（1－1）住み続けたい理由

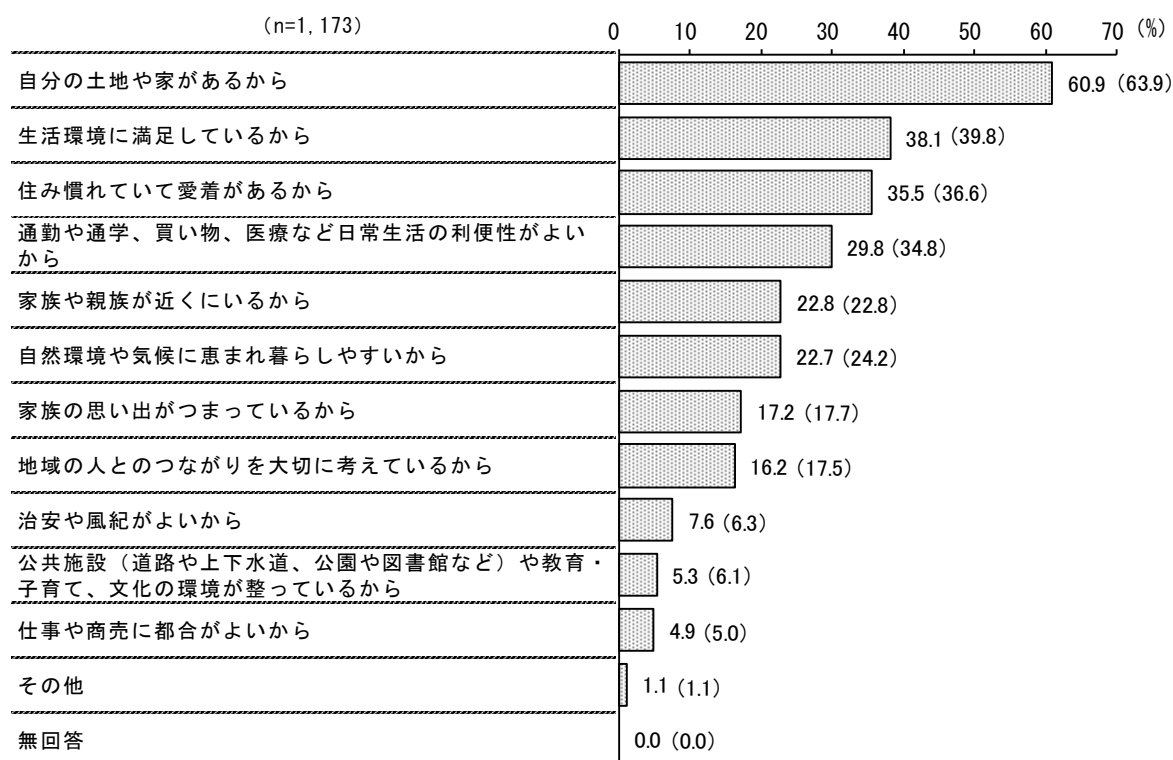
◇「自分の土地や家があるから」が6割

（問1で「住み続けたい」とお答えの方に）

問1－1 あなたが現在お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思う理由は何ですか。

（○は3つまで）

<図表1－3>住み続けたい理由（3つまでの複数回答）



注) () の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=1,151

「住み続けたい」と回答した1,173人を対象に、住み続けたい理由を聞いたところ、「自分の土地や家があるから」(60.9%)が6割で最も高く、以下、「生活環境に満足しているから」(38.1%)、「住み慣れていて愛着があるから」(35.5%)、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」(29.8%)が続く。(図表1－3)

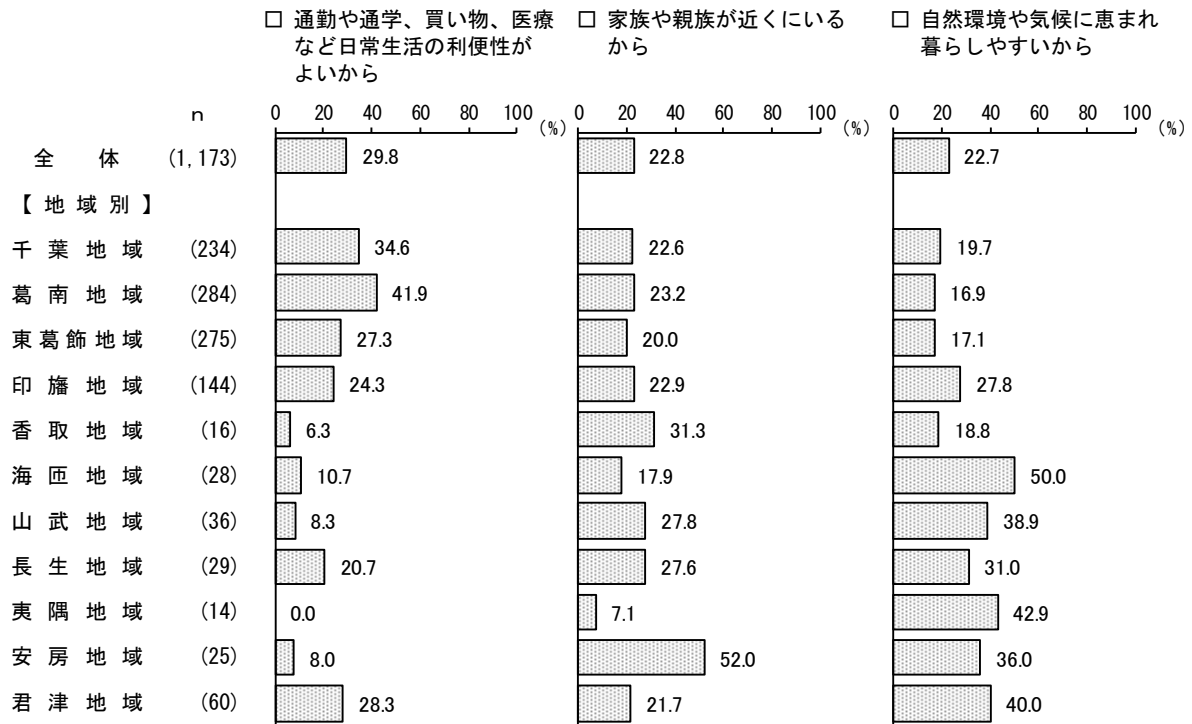
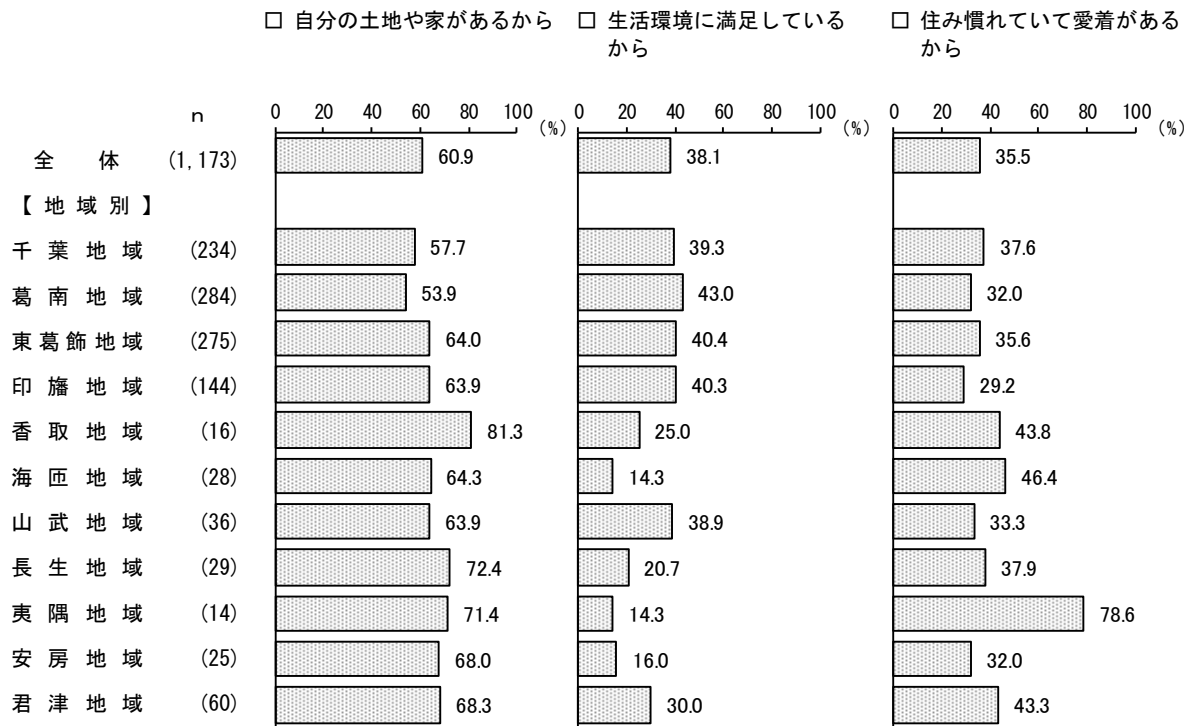
【地域別】

地域別にみると、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」は“葛南地域”(41.9%)が4割を超えて高くなっている。(図表1－4)

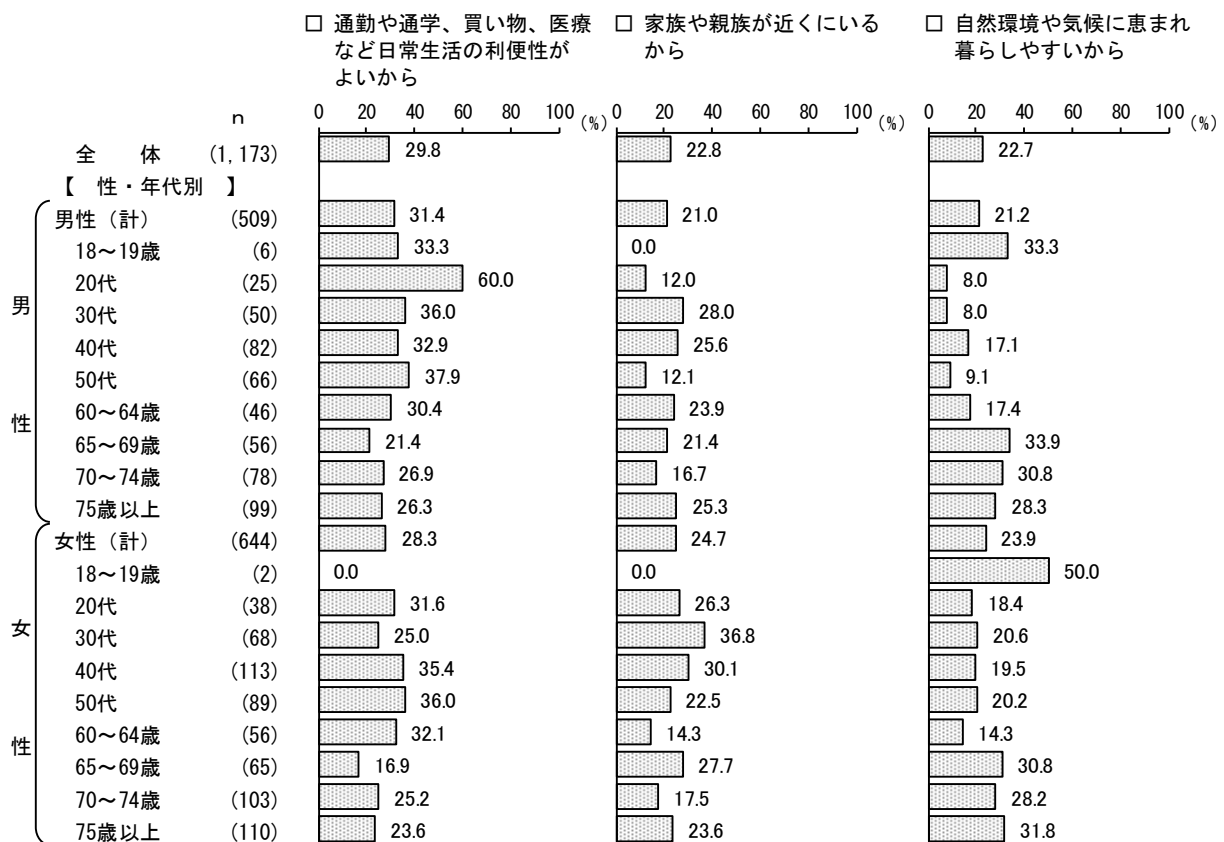
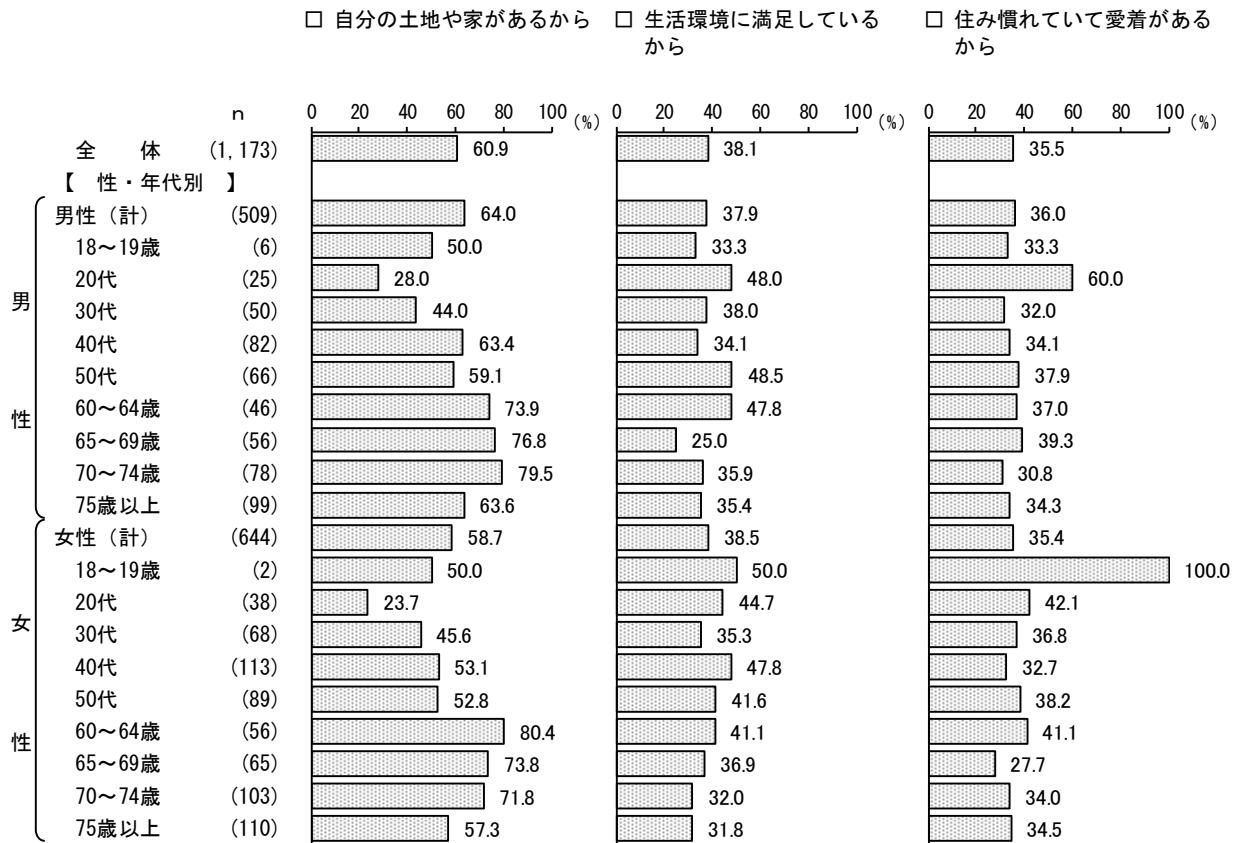
【性・年代別】

性・年代別にみると、「自分の土地や家があるから」は女性の60～64歳(80.4%)で8割、男性の70～74歳(79.5%)で約8割、男性の65～69歳(76.8%)と女性の65～69歳(73.8%)で7割台半ば、女性の70～74歳(71.8%)が7割を超えて高くなっている。(図表1－4)

<図表1-4>住みたい理由（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



第 63 回県政に関する世論調査（R 4 年度）



（1-2）移りたい理由

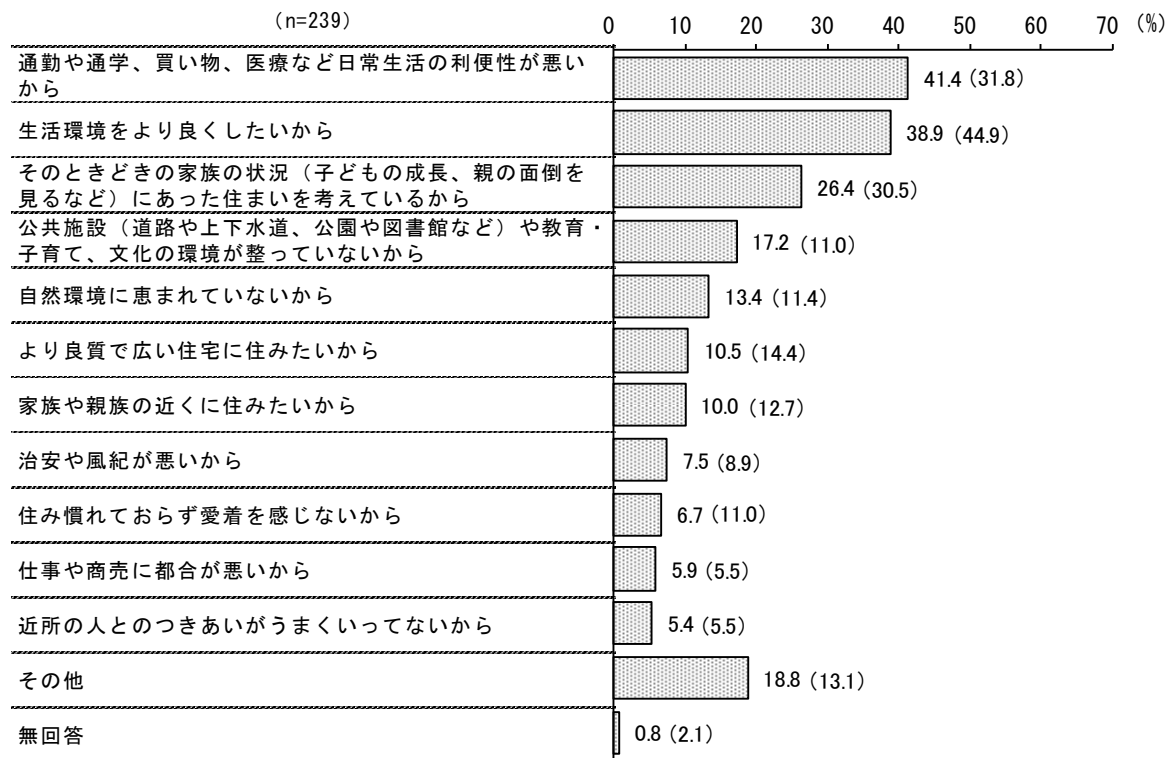
◇「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」が4割を超える

（問1で「千葉県内のよそへ移りたい」「千葉県外に移りたい」「千葉県内、県外どちらでもかまわないうちに移りたい」のいずれかをお答えの方に）

問1-2 あなたが現在お住まいの地域から移りたいと思う理由は何ですか。

（○は3つまで）

＜図表1-5＞移りたい理由（3つまでの複数回答）



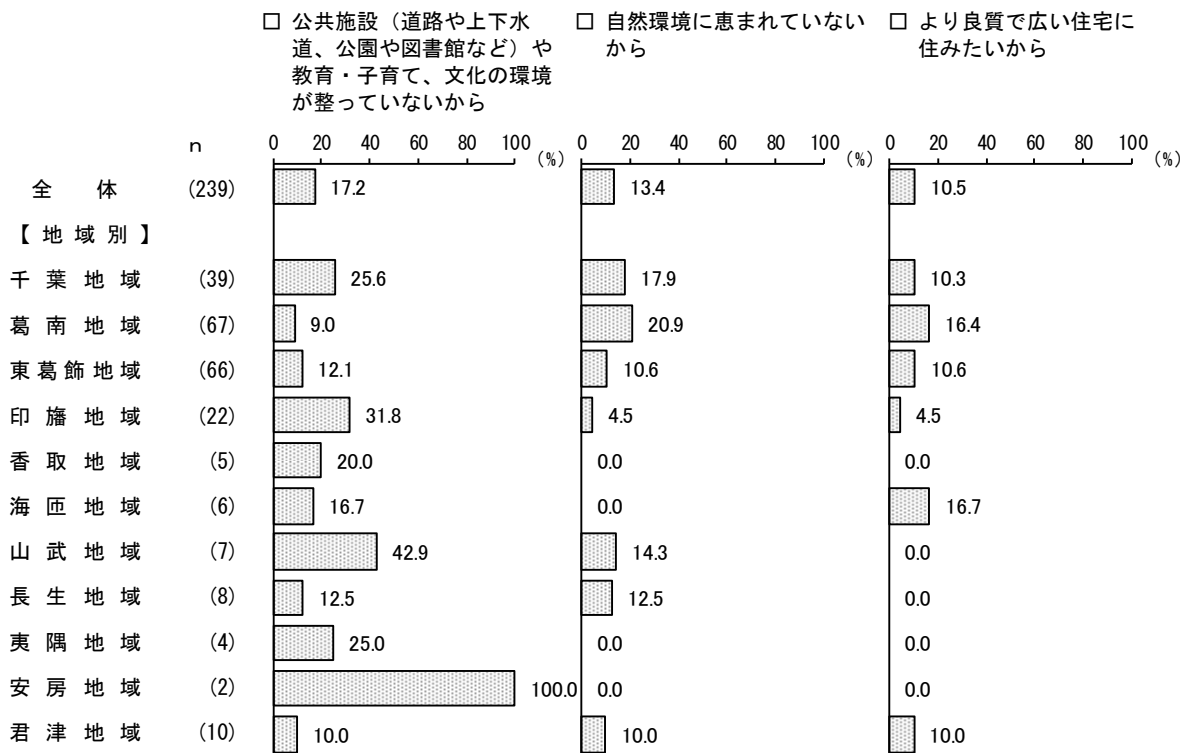
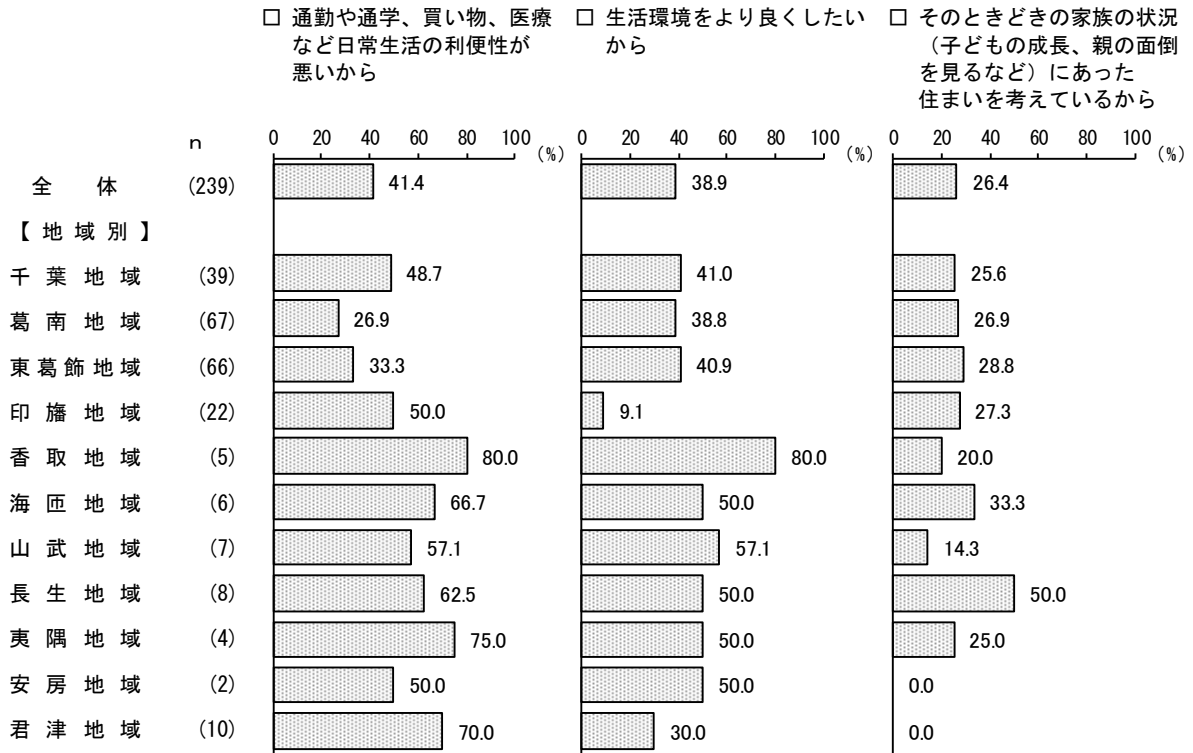
注）（ ）の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=236

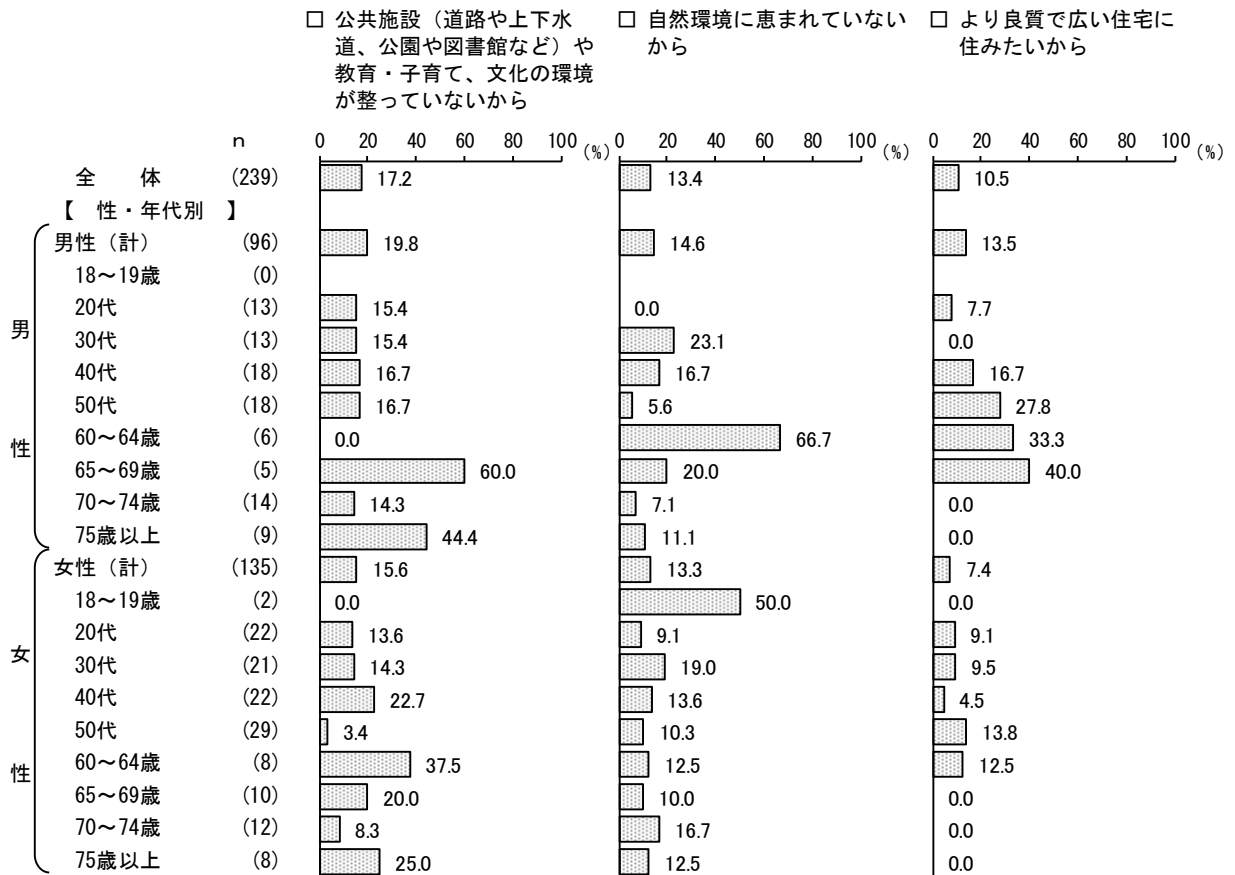
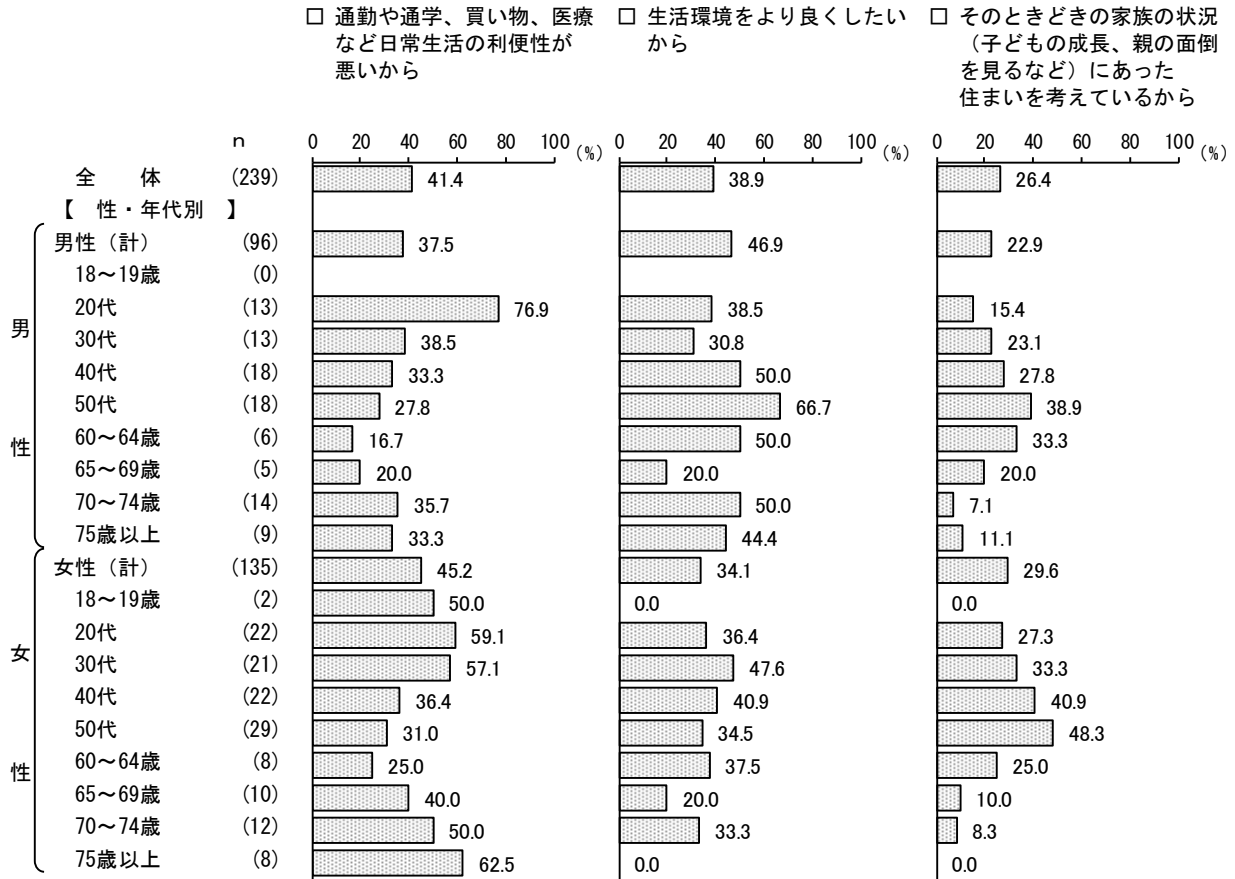
「移りたい」と回答した239人を対象に、移りたい理由を聞いたところ、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」（41.4%）が4割を超えて最も高く、以下、「生活環境をより良くしたいから」（38.9%）、「そのときどきの家族の状況（子どもの成長、親の面倒を見るなど）にあった住まいを考えているから」（26.4%）が続く。（図表1-5）

※サンプル数が少ないため、【地域別】【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（8ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表1-6）

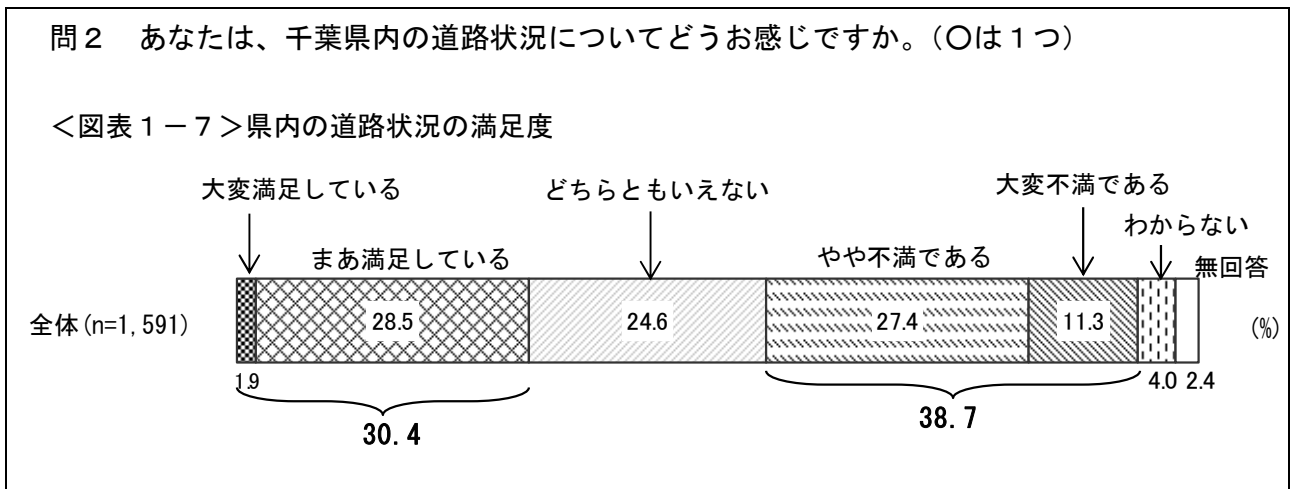
[参考] <図表 1-6> 移りたい理由（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





（２）県内の道路状況の満足度

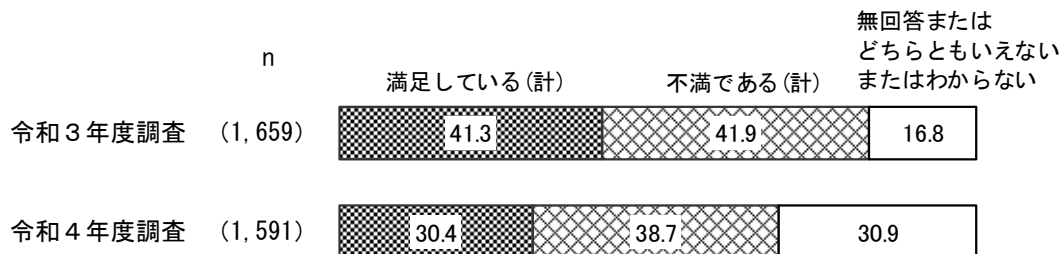
◇『満足している（計）』が3割



県内の道路状況の満足度を聞いたところ、「大変満足している」（1.9％）と「まあ満足している」（28.5％）を合わせた『満足している（計）』（30.4％）が3割となっている。

一方、「やや不満である」（27.4％）と「大変不満である」（11.3％）を合わせた『不満である（計）』（38.7％）は約4割となっている。（図表 1-7）

【参考】 令和3年度の類似の項目による調査結果との比較（単位：％）



（※）令和3年度調査で、「問2 現在お住まいの地域の、道路の整備についてどう感じですか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、『満足している（計）』は“千葉地域”（38.1％）が約4割で高くなっている。一方、『不満である（計）』は“葛南地域”（46.3％）が4割台半ばで高くなっている。

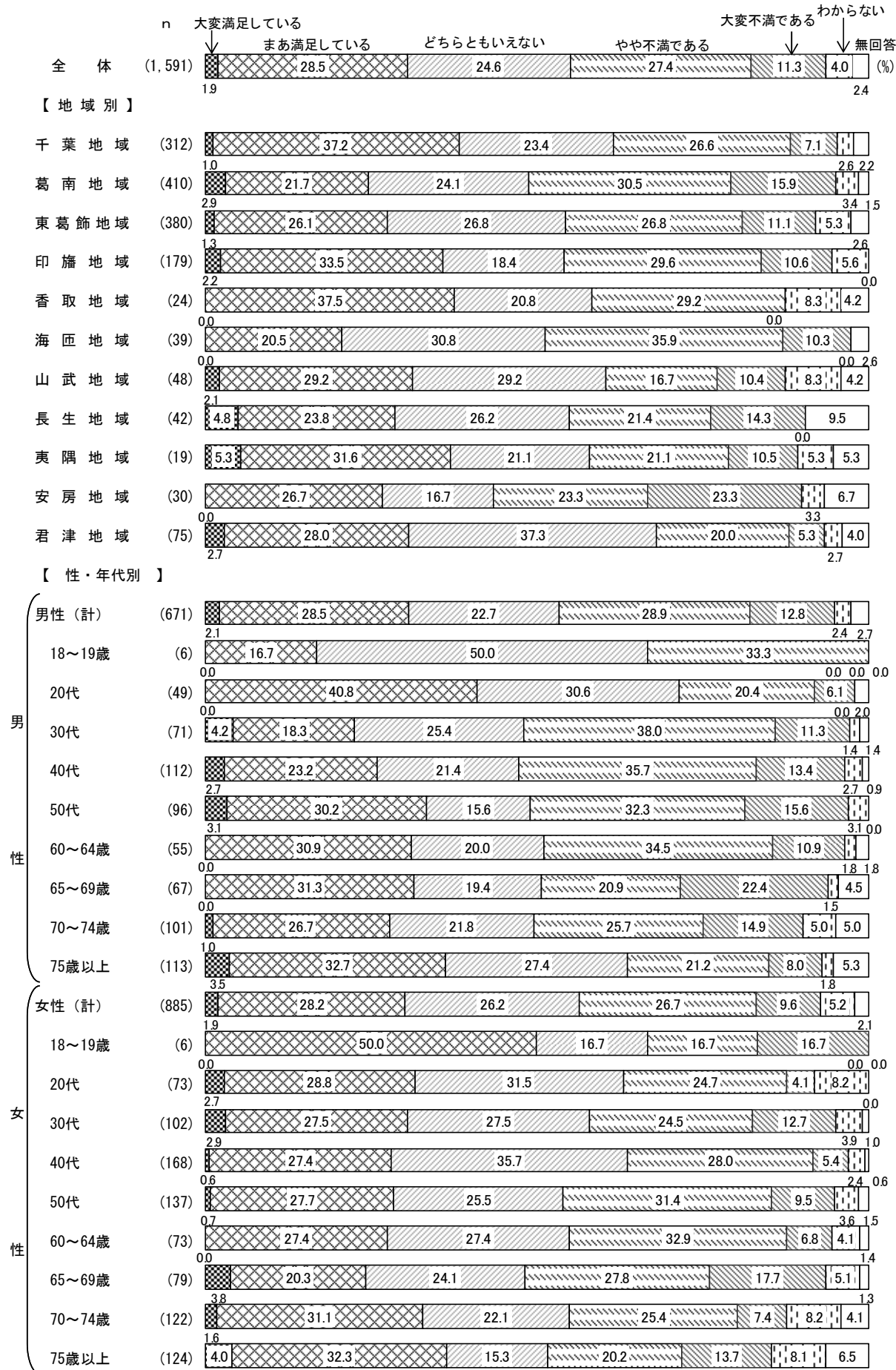
（図表 1-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『不満である（計）』は男性の40代（49.1％）が約5割で高くなっている。

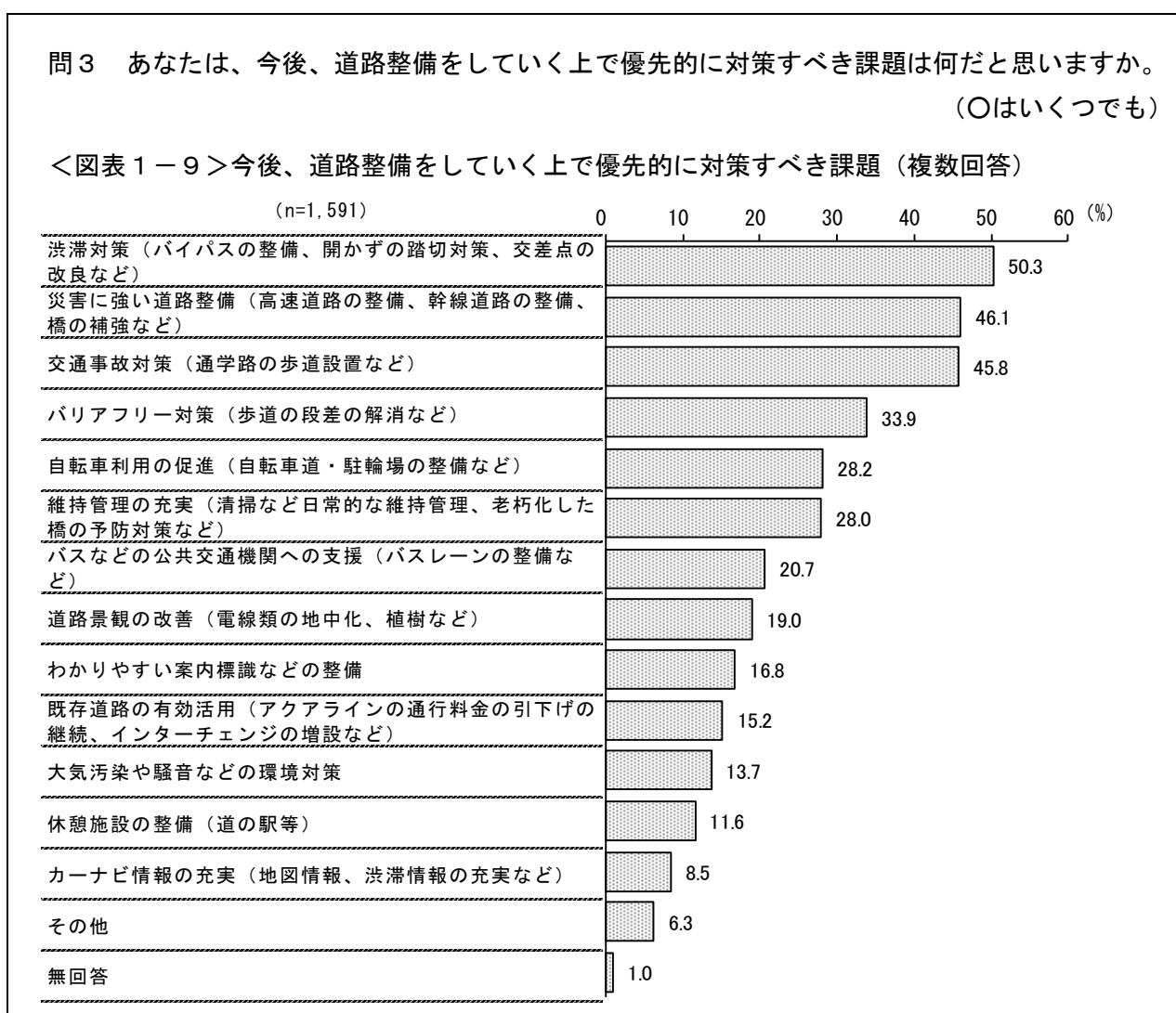
（図表 1-8）

<図表1-8> 県内の道路状況の満足度／地域別、性・年代別



（3）今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題

◇「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」が5割



今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題を聞いたところ、「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」（50.3%）が5割で最も高く、以下、「災害に強い道路整備（高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など）」（46.1%）、「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」（45.8%）、「バリアフリー対策（歩道の段差の解消など）」（33.9%）が続く。

（図表1-9）

【地域別】

地域別にみると、「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」は“葛南地域”（60.5%）が6割で高くなっている。

「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」は“山武地域”（60.4%）が6割で高くなっている。

（図表1-10）

【性・年代別】

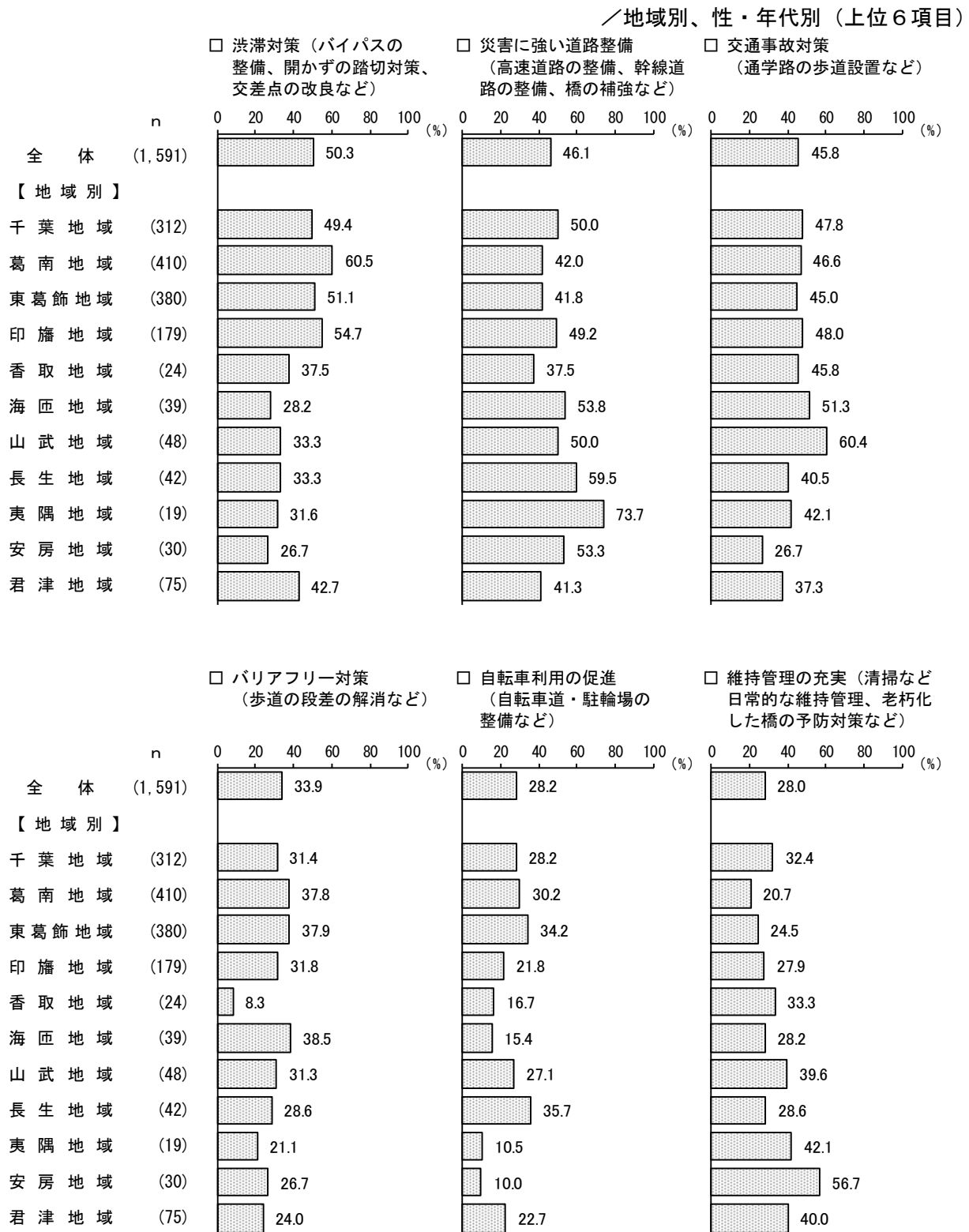
性・年代別にみると、「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」は男性の30代（73.2%）と男性の40代（73.2%）で7割を超え、男性の50代（70.8%）で7割、女性の30代（64.7%）が6割台半ばで高くなっている。

「災害に強い道路整備（高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など）」は女性の50代（54.7%）が5割台半ばで高くなっている。

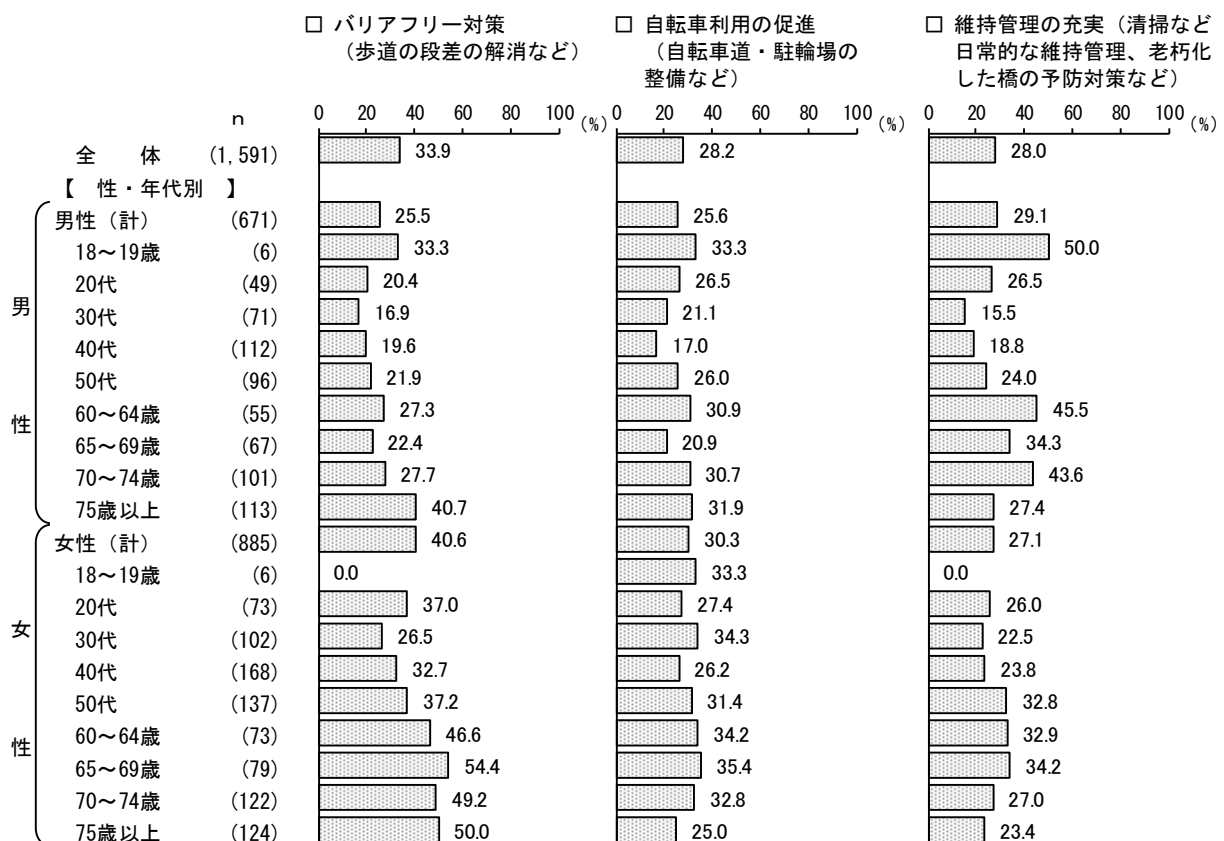
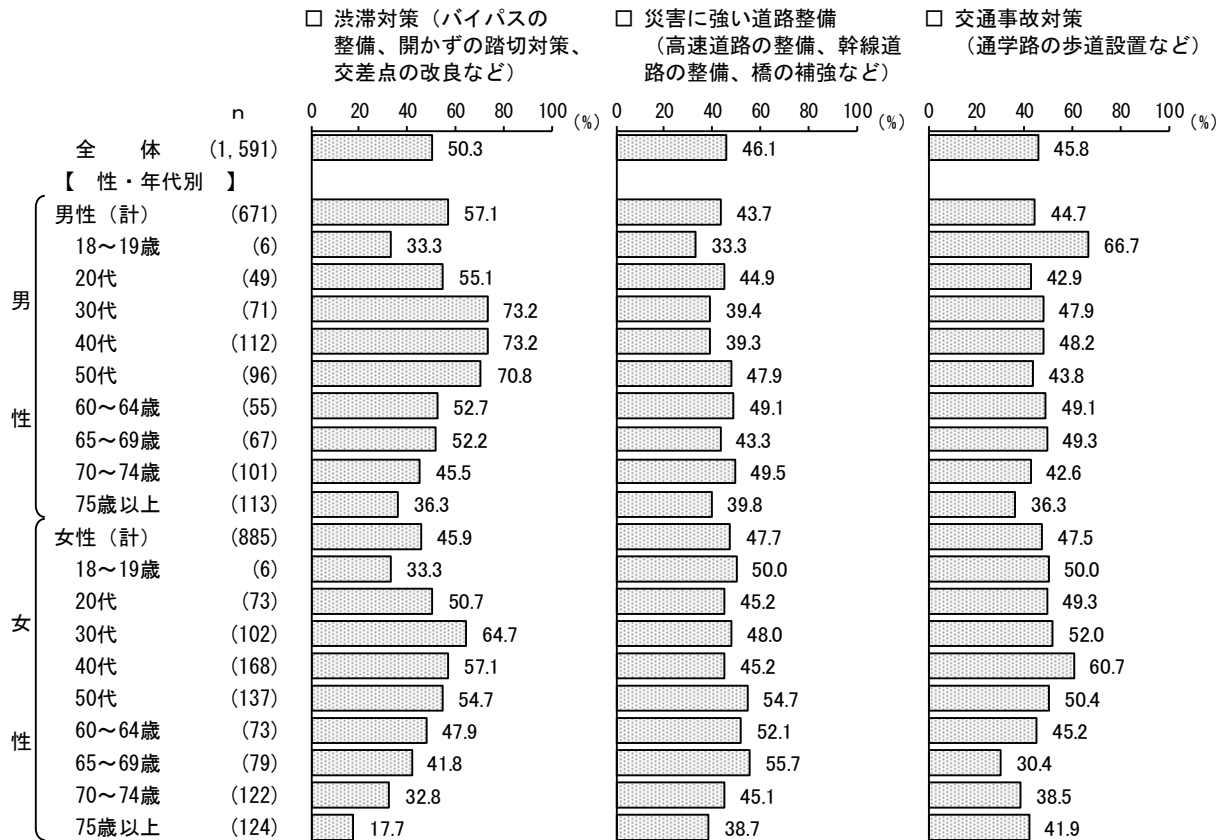
「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」は女性の40代（60.7%）が6割で高くなっている。

「バリアフリー対策（歩道の段差の解消など）」は女性の65～69歳（54.4%）が5割台半ば、女性の75歳以上（50.0%）が5割、女性の70～74歳（49.2%）が約5割、女性の60～64歳（46.6%）が4割台半ばで高くなっている。（図表1-10）

<図表1-10> 今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題（複数回答）

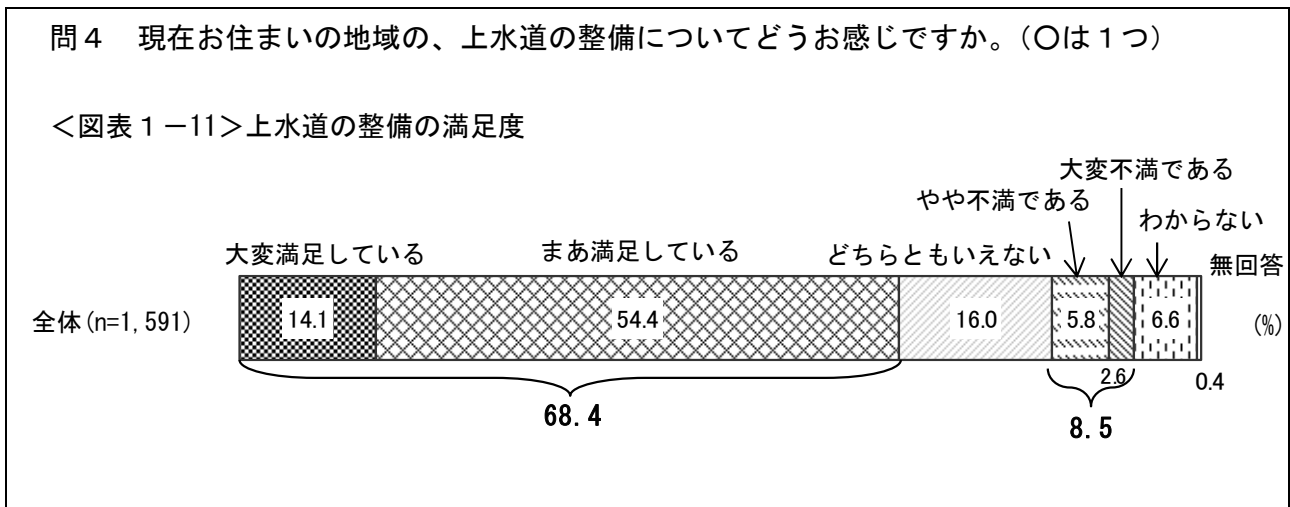


第 63 回県政に関する世論調査（R 4 年度）



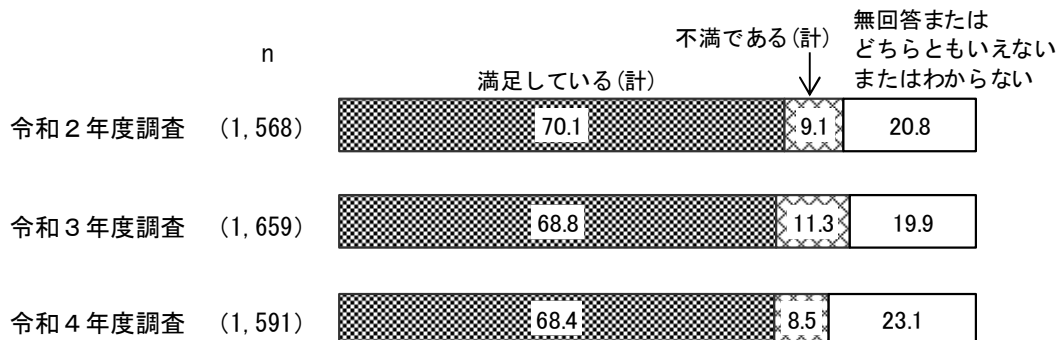
（４）上水道の整備の満足度

◇『満足している（計）』が約7割



現在お住まいの地域の上水道の整備の満足度を聞いたところ、「大変満足している」（14.1%）と「まあ満足している」（54.4%）を合わせた『満足している（計）』（68.4%）が約7割となっている。一方、「やや不満である」（5.8%）と「大変不満である」（2.6%）を合わせた『不満である（計）』（8.5%）が約1割となっている。（図表1-11）

〔参考〕令和2年度・3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『満足している（計）』は“東葛飾地域”（73.2%）が7割を超えて高くなっている。

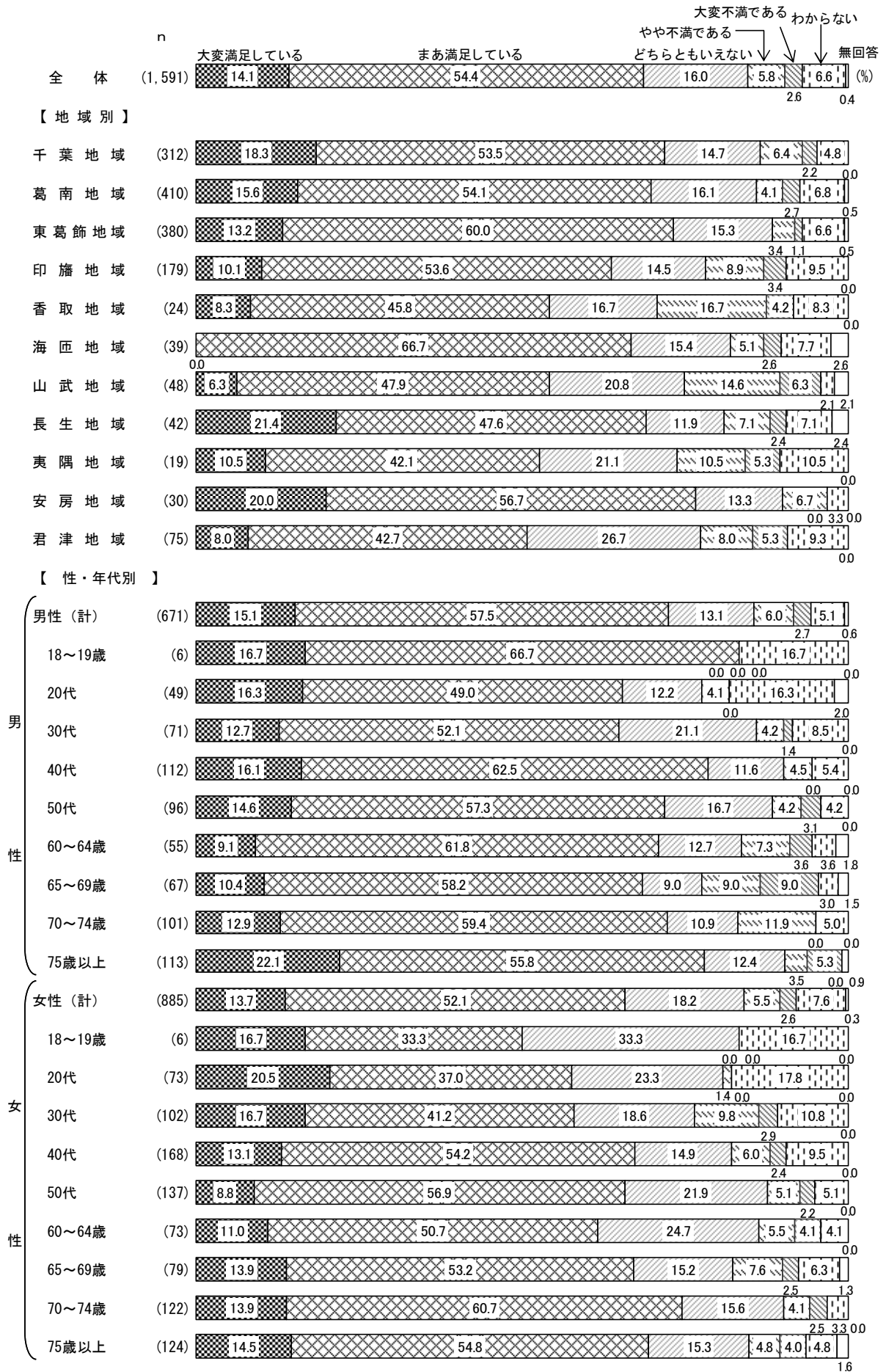
一方、『不満である（計）』は“山武地域”（20.8%）が2割で高くなっている。（図表1-12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の40代（78.6%）と男性の75歳以上（77.9%）が約8割で高くなっている。

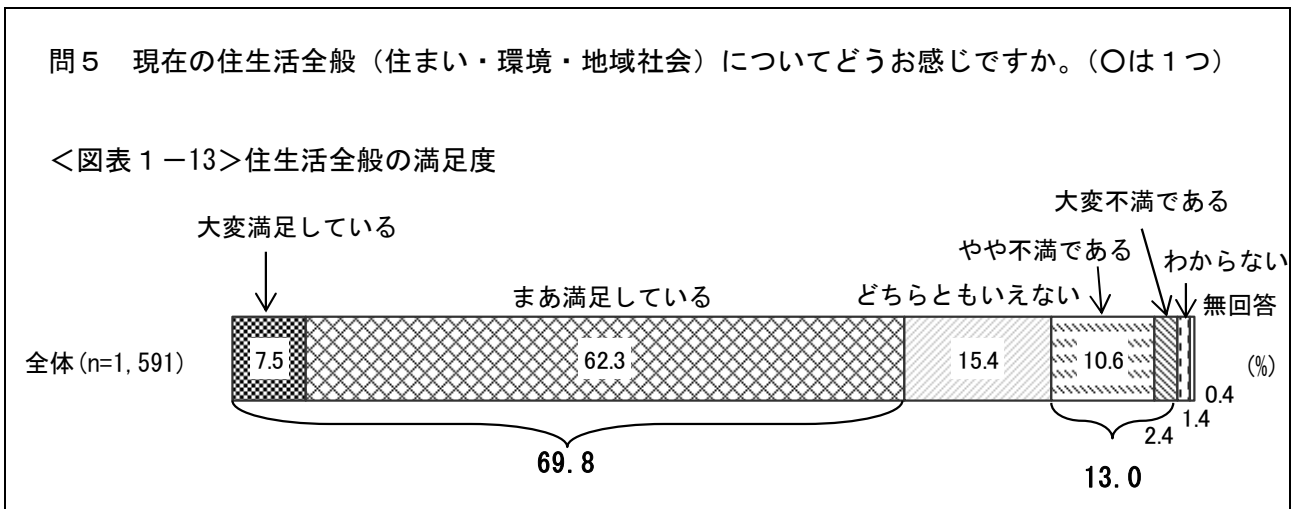
一方、『不満である（計）』は男性の65～69歳（17.9%）が約2割で高くなっている。（図表1-12）

<図表 1-12> 上水道の整備の満足度／地域別、性・年代別



（5）住生活全般の満足度

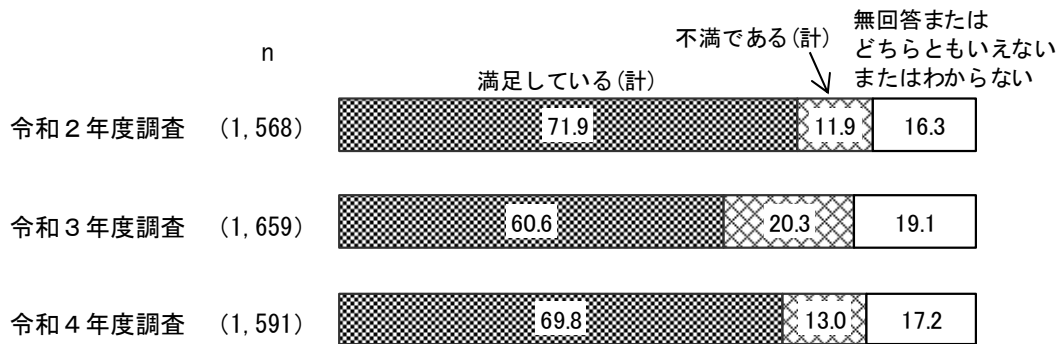
◇『満足している（計）』が約7割



現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（7.5%）と「まあ満足している」（62.3%）を合わせた『満足している（計）』（69.8%）が約7割となっている。

一方、「やや不満である」（10.6%）と「大変不満である」（2.4%）を合わせた『不満である（計）』（13.0%）が1割を超えている。（図表1-13）

【参考】令和2年度・3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



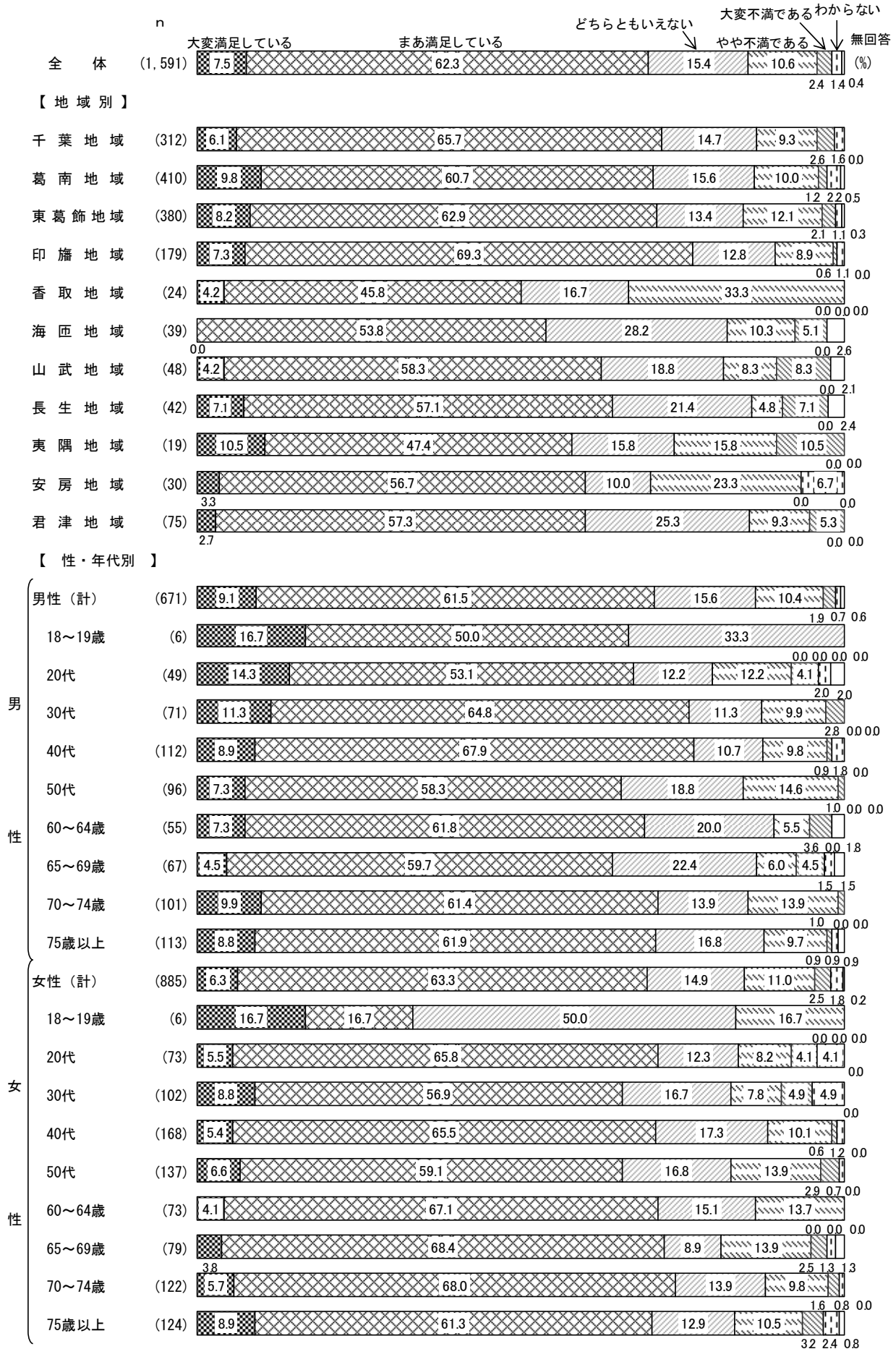
【地域別】

地域別にみると、『満足している（計）』は“印旛地域”（76.5%）が7割台半ばで高くなっている。（図表1-14）

【性・年代別】

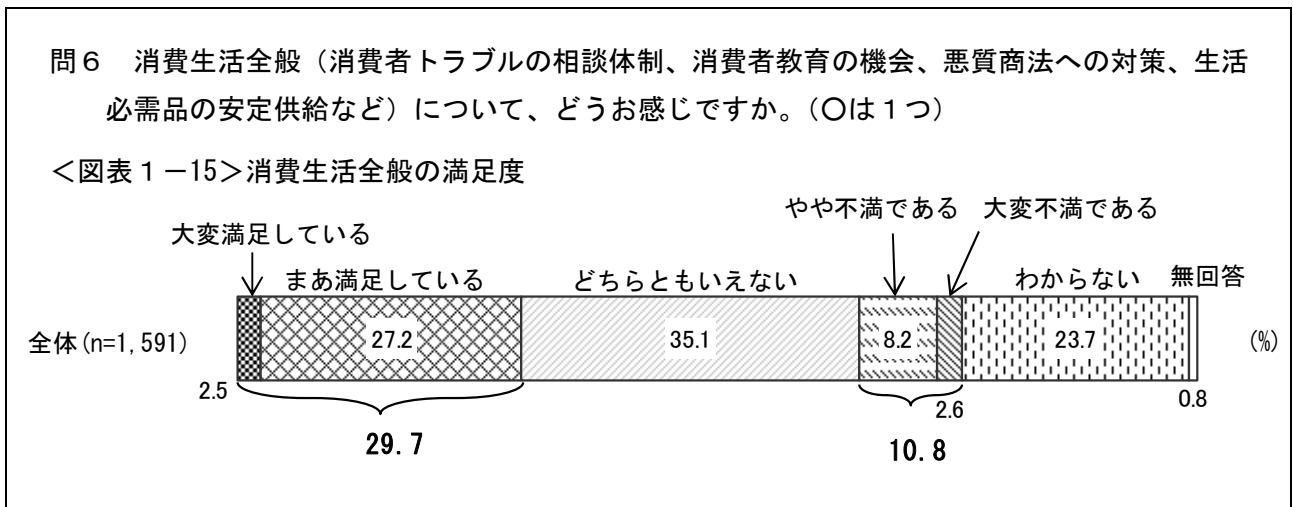
性・年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表1-14）

<図表 1-14>住生活全般の満足度／地域別、性・年代別



（6）消費生活全般の満足度

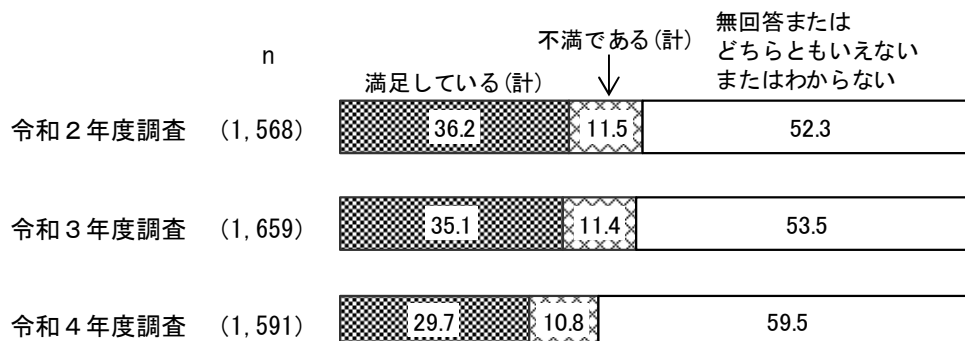
◇『満足している（計）』が約3割



消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（2.5%）と「まあ満足している」（27.2%）を合わせた『満足している（計）』（29.7%）が約3割となっている。

一方、「やや不満である」（8.2%）と「大変不満である」（2.6%）を合わせた『不満である（計）』（10.8%）が1割となっている。（図表1-15）

〔参考〕令和2年度・3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



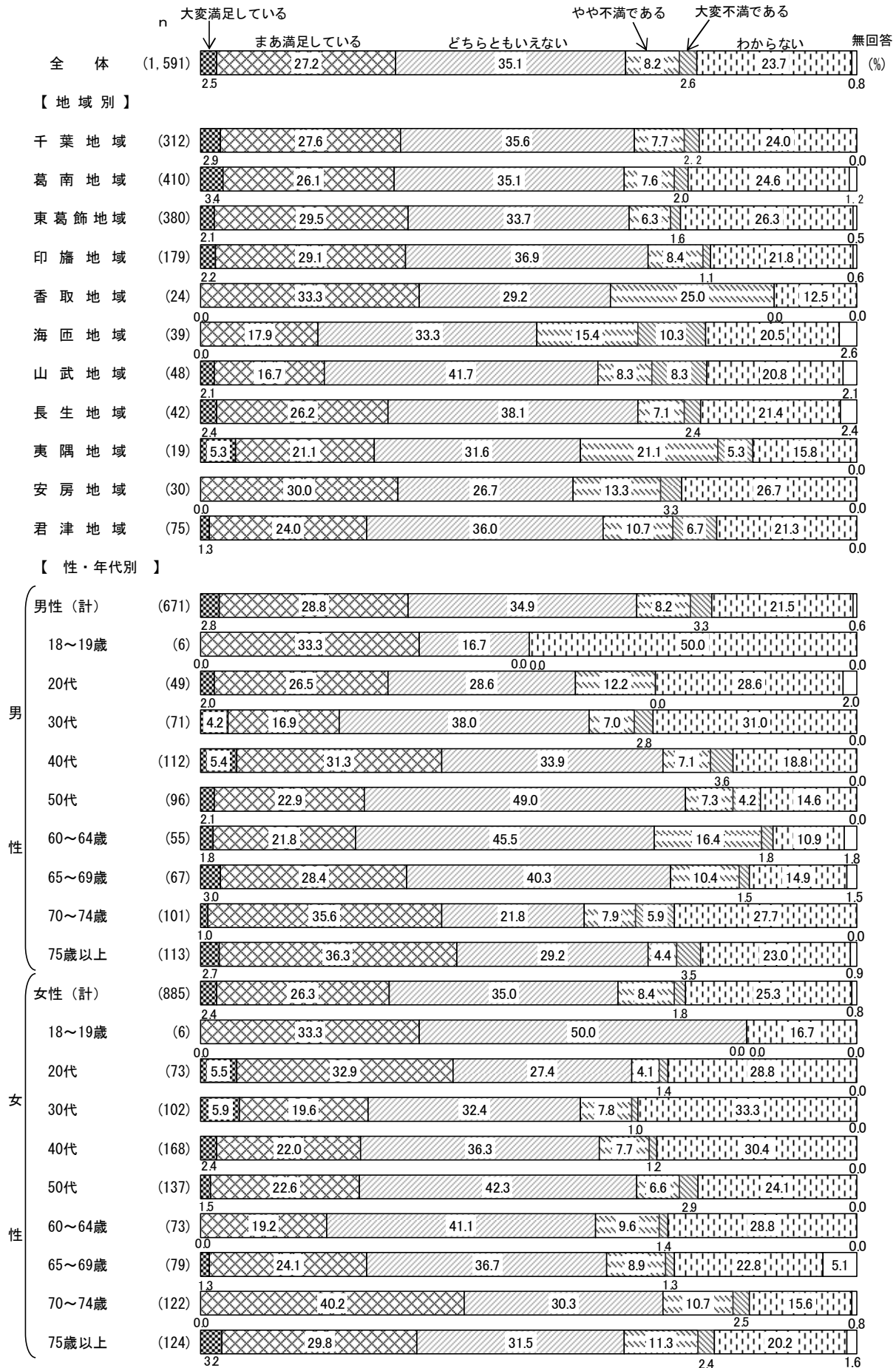
【地域別】

地域別にみると、『不満である（計）』は“海匠地域”（25.6%）が2割台半ばで高くなっている。（図表1-16）

【性・年代別】

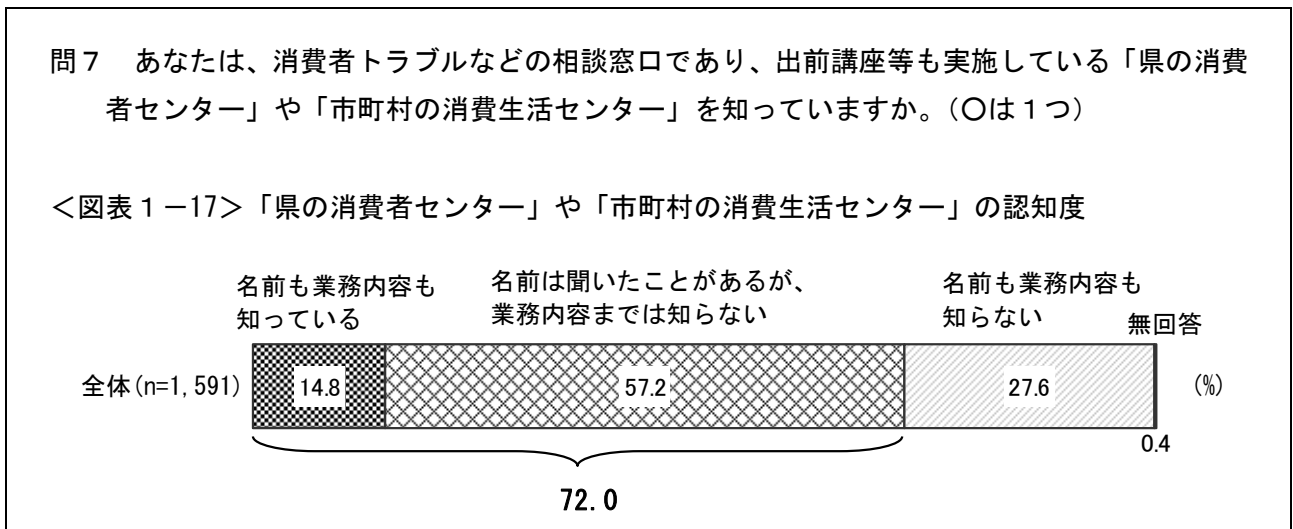
性・年代別にみると、『満足している（計）』は女性の70～74歳（40.2%）が4割、男性の75歳以上（38.9%）が約4割で高くなっている。（図表1-16）

<図表 1-16>消費生活全般の満足度／地域別、性・年代別



（7）「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度

◇『名前を聞いたことがある（計）』が7割を超える



「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」を知っているか聞いたところ、「名前も業務内容も知っている」(14.8%)と「名前は聞いたことがあるが、業務内容までは知らない」(57.2%)を合わせた『名前を聞いたことがある（計）』(72.0%)が7割を超えている。

一方、「名前も業務内容も知らない」(27.6%)が約3割となっている。(図表1-17)

【地域別】

地域別にみると、『名前を聞いたことがある（計）』は“印旛地域” (81.0%)が8割を超えて高くなっている。

一方「名前も業務内容も知らない」は“葛南地域” (32.9%)が3割を超えて高くなっている。

(図表1-18)

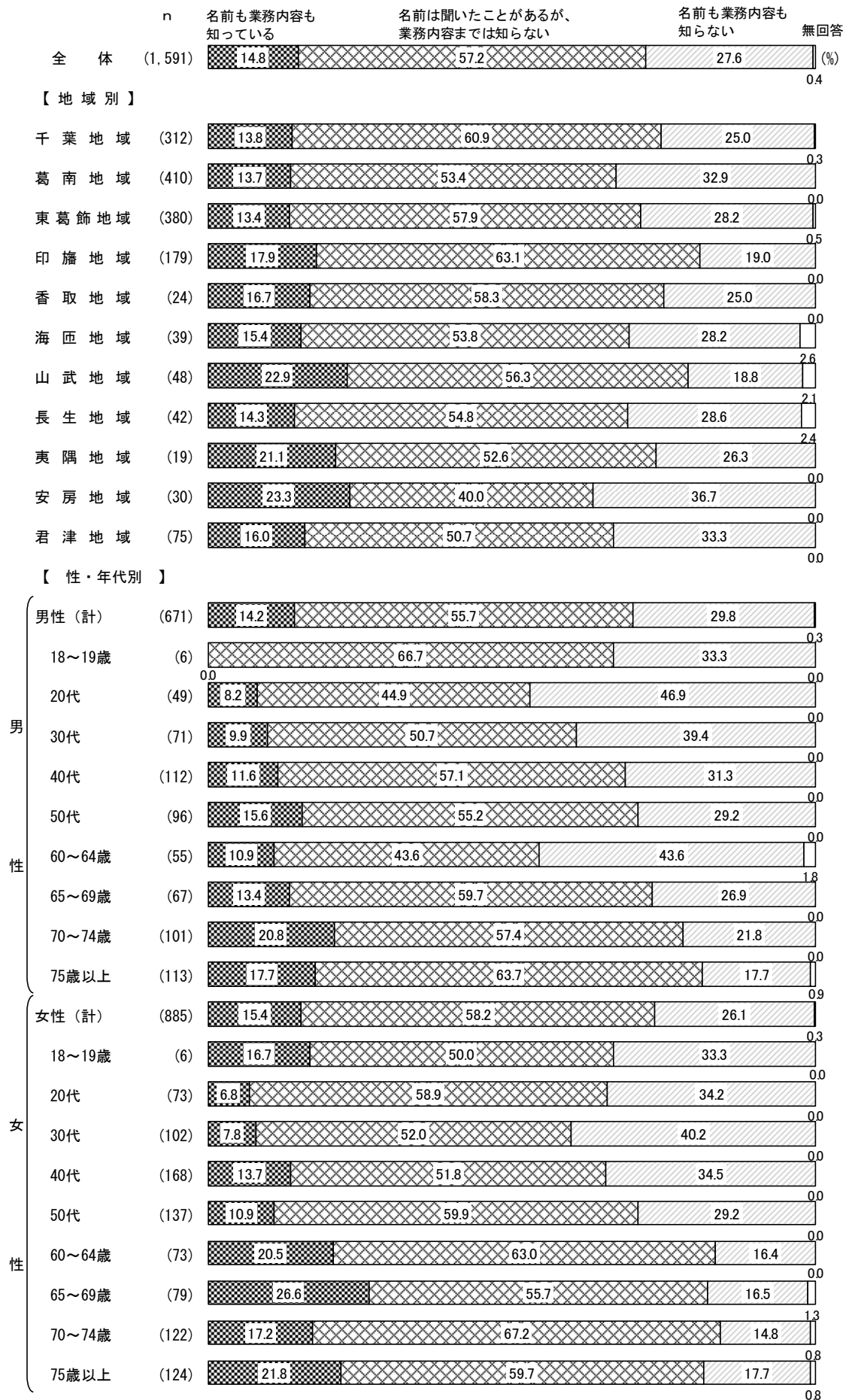
【性・年代別】

性・年代別にみると、『名前を聞いたことがある（計）』は女性の60～64歳 (83.6%)と女性の70～74歳 (84.4%)が8割台半ば、男性の75歳以上 (81.4%)、女性の65～69歳 (82.3%)、女性の75歳以上 (81.5%)が8割を超えて高くなっている。

一方「名前も業務内容も知らない」は男性の20代 (46.9%)と男性の60～64歳 (43.6%)が4割台半ば、女性の30代 (40.2%)が4割、男性の30代 (39.4%)が約4割、女性の40代 (34.5%)が3割台半ばで高くなっている。(図表1-18)

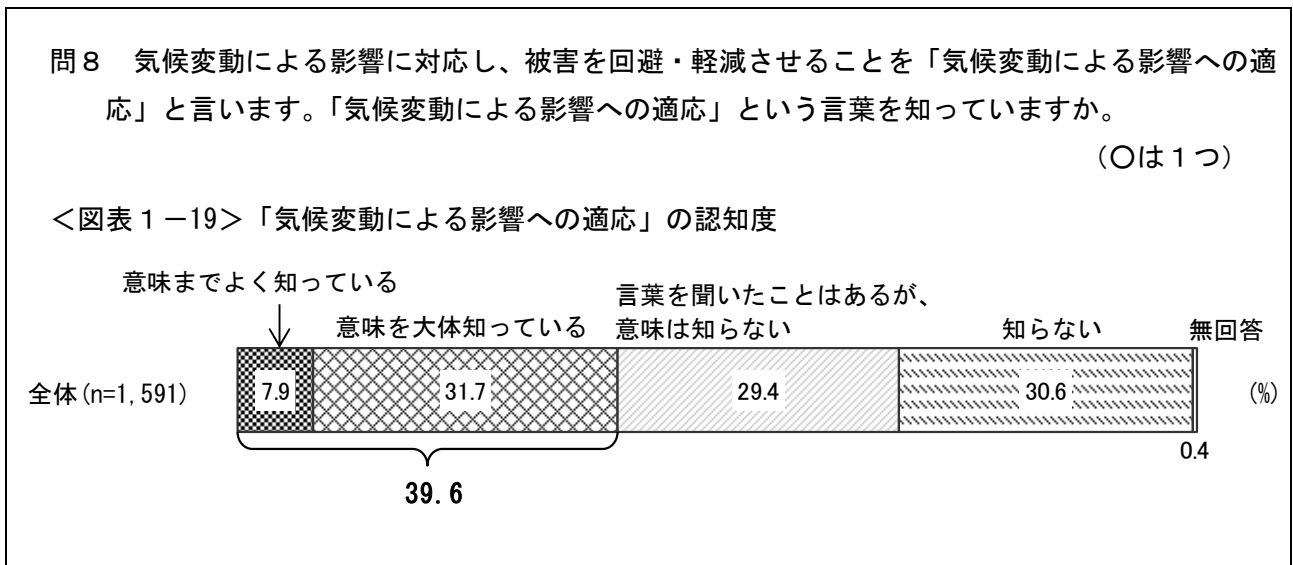
＜図表 1-18＞「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度

／地域別、性・年代別



（8）「気候変動による影響への適応」の認知度

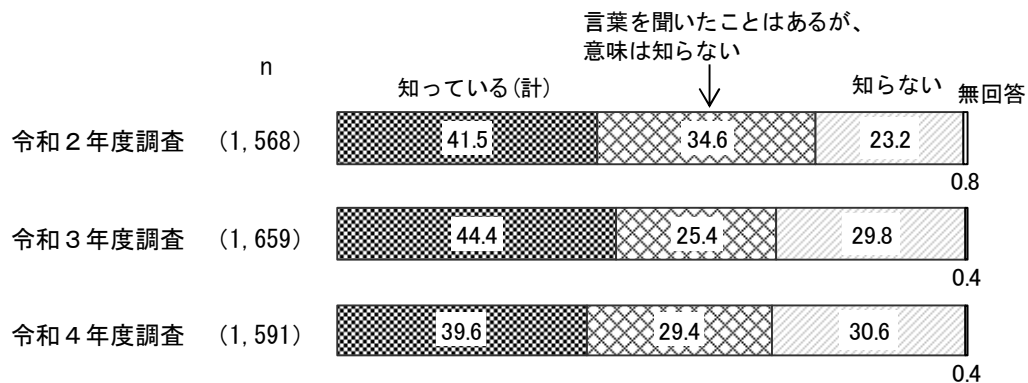
◇『意味を知っている（計）』が約4割



「気候変動による影響への適応」について、その認知度を聞いたところ、「意味までよく知っている」(7.9%)と「意味を大体知っている」(31.7%)を合わせた『意味を知っている(計)』(39.6%)が約4割となっている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(29.4%)は約3割、「知らない」(30.6%)は3割となっている。(図表1-19)

【参考】令和2年度・3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

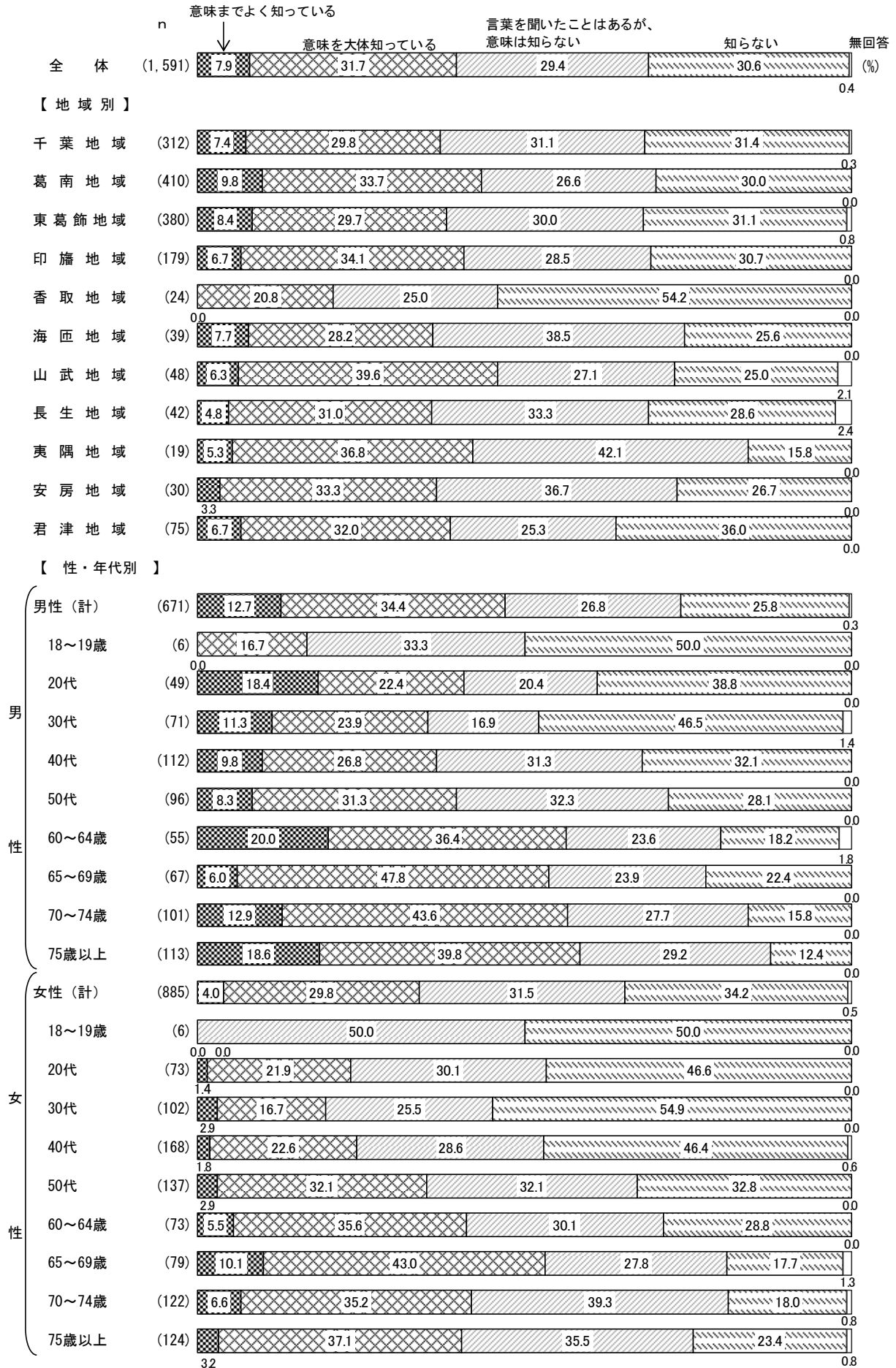
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表1-20)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意味を知っている(計)』は男性の75歳以上(58.4%)が約6割、男性の60~64歳(56.4%)、男性の65~69歳(53.7%)、男性の70~74歳(56.4%)が5割台半ば、女性の65~69歳(53.2%)が5割を超えて高くなっている。

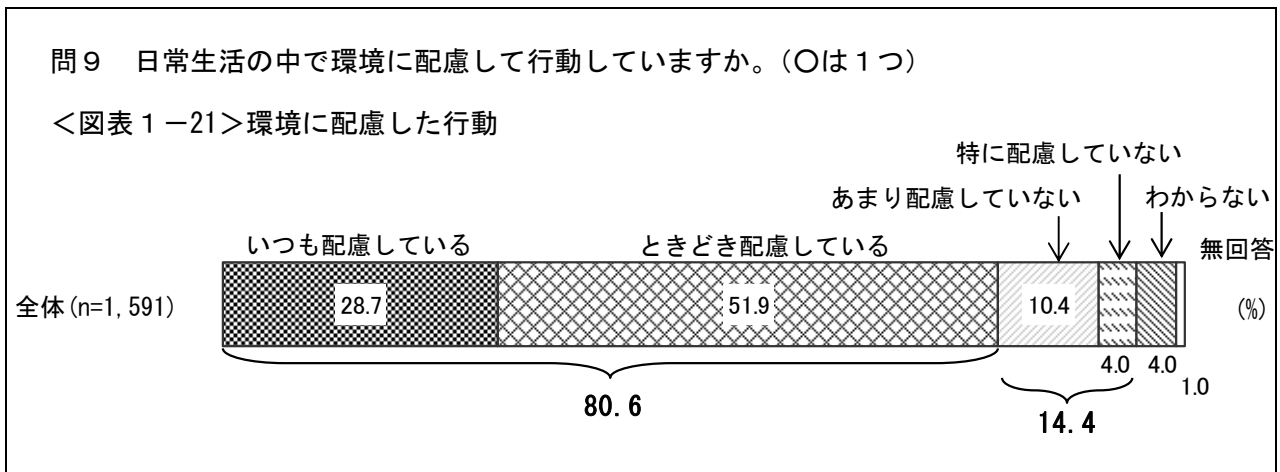
一方、「知らない」は女性の30代(54.9%)が5割台半ば、男性の30代(46.5%)、女性の20代(46.6%)、女性の40代(46.4%)が4割台半ばで高くなっている。(図表1-20)

<図表 1-20> 「気候変動による影響への適応」の認知度／地域別、性・年代別



（9）環境に配慮した行動

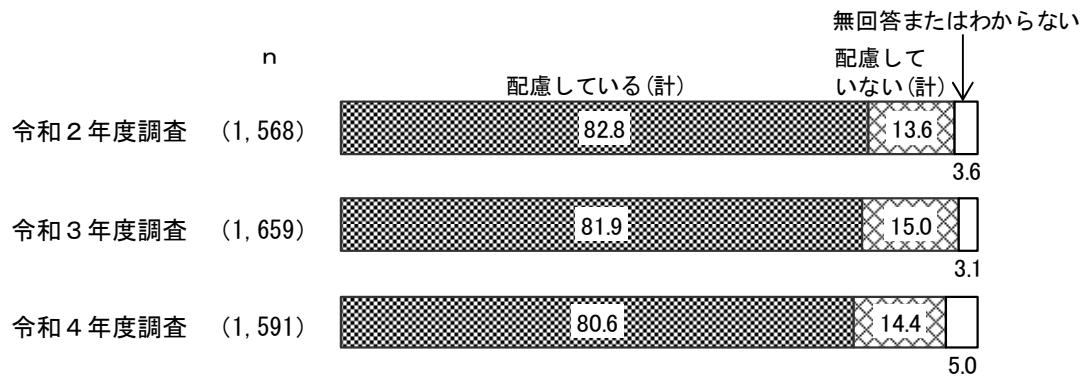
◇『配慮している（計）』が8割



日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」（28.7%）と「ときどき配慮している」（51.9%）を合わせた『配慮している（計）』（80.6%）が8割となっている。

一方、「あまり配慮していない」（10.4%）と「特に配慮していない」（4.0%）を合わせた『配慮していない（計）』（14.4%）が1割台半ばとなっている。（図表1-21）

【参考】令和2年度・3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

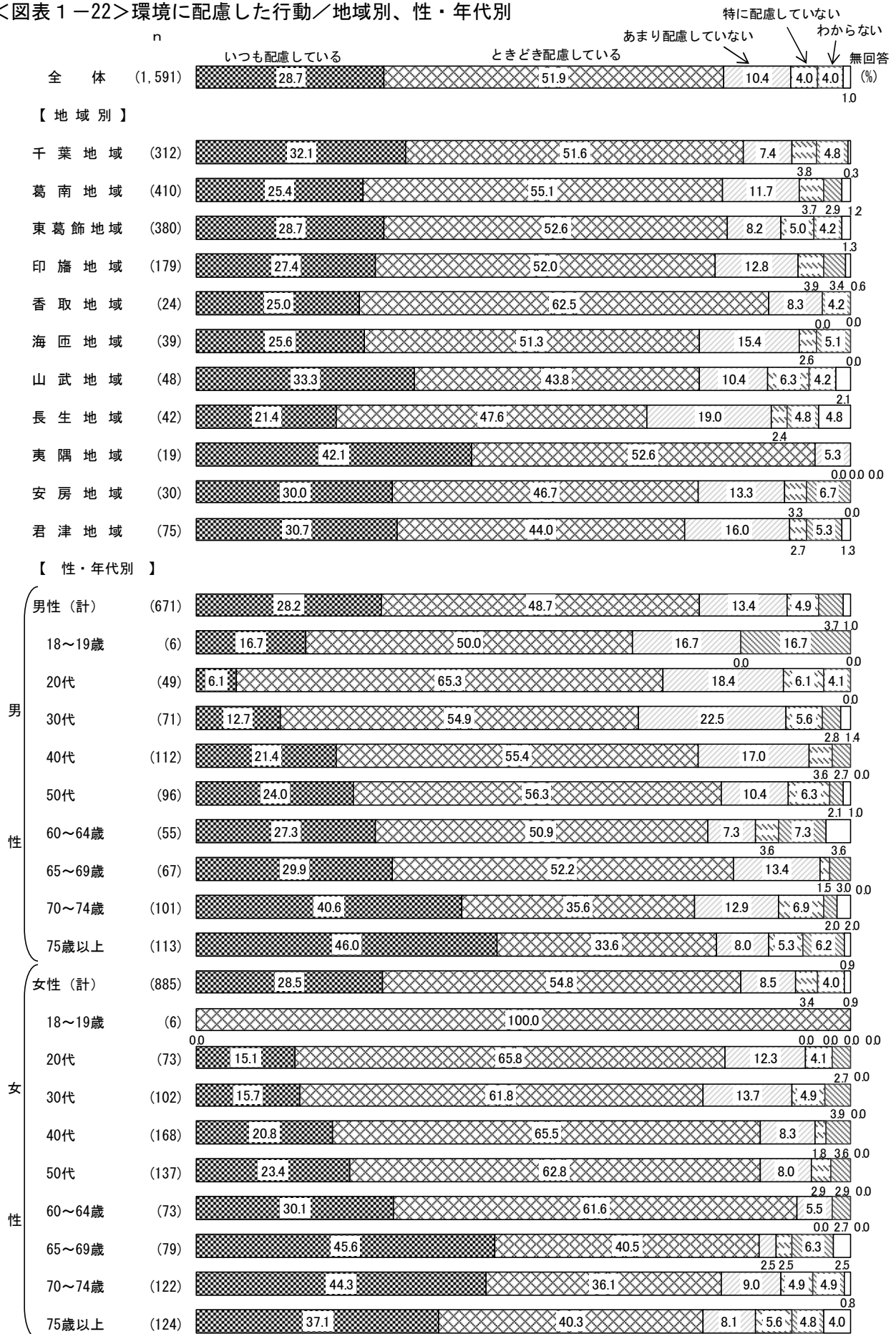
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表1-22）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『配慮している（計）』は女性の60～64歳（91.8%）が9割を超え、女性の40代（86.3%）が8割台半ばで高くなっている。

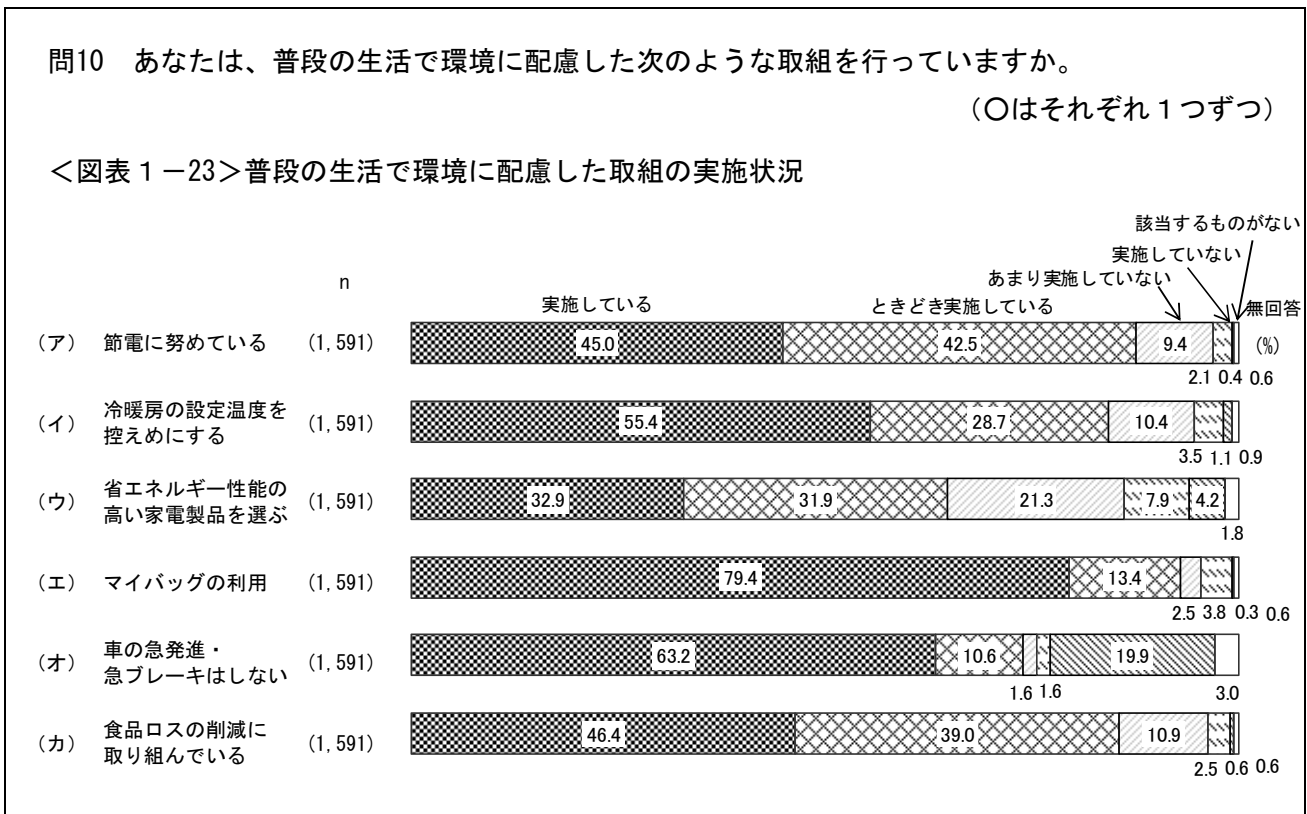
一方『配慮していない（計）』は男性の30代（28.2%）が約3割、男性の20代（24.5%）が2割台半ばで高くなっている。（図表1-22）

<図表 1-22>環境に配慮した行動／地域別、性・年代別



(10) 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

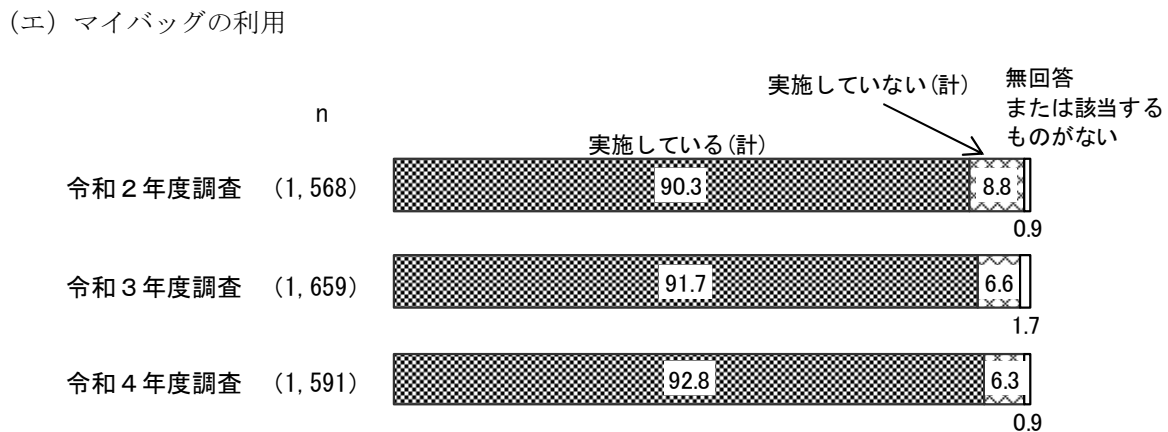
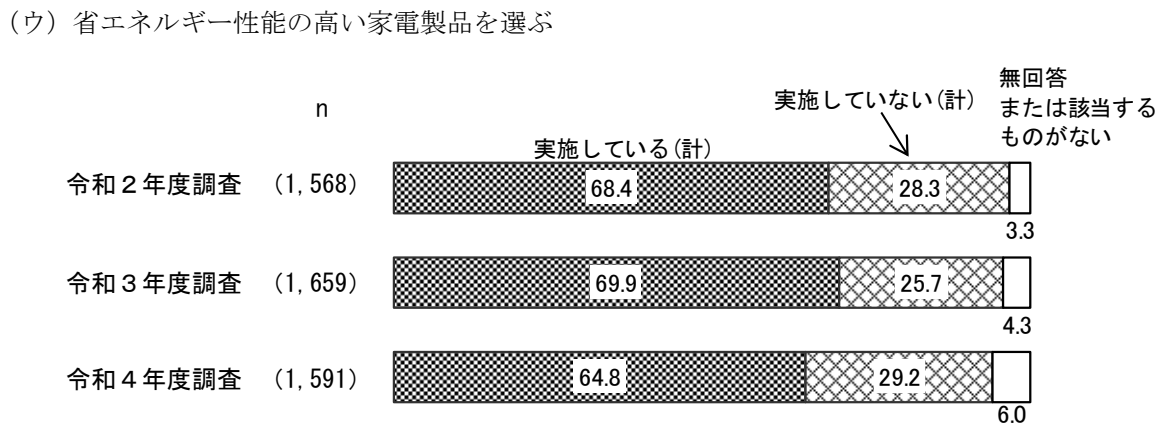
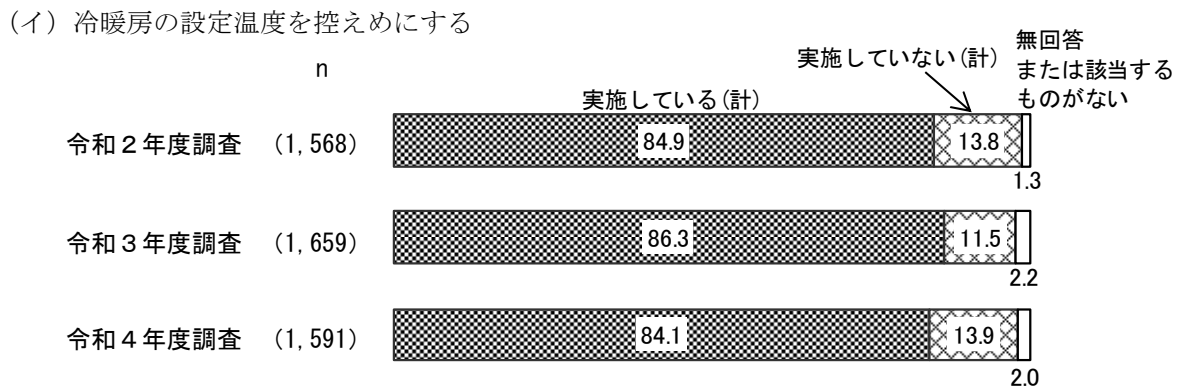
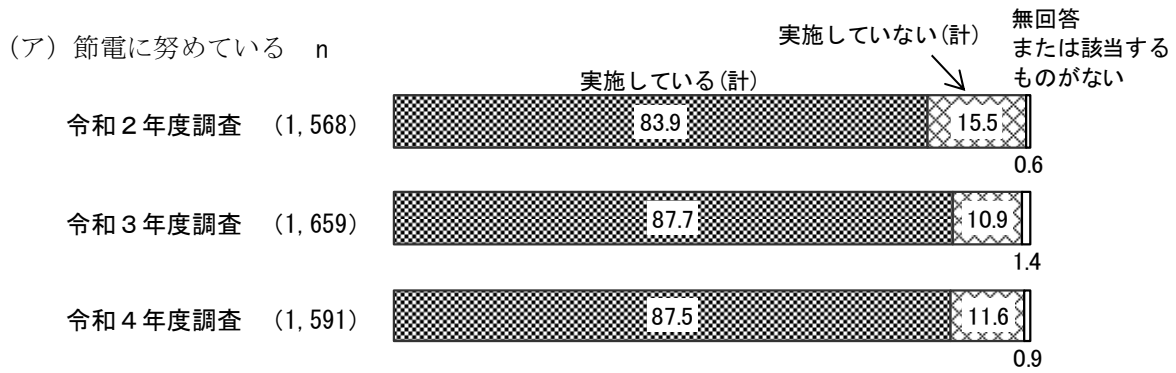
◇『実施している（計）』が最も高いのは〈マイバッグの利用〉で9割を超える



普段の生活で行っている環境保全の取組に関する6つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している（計）』が最も高いのは、「(エ) マイバッグの利用」(92.8%)で9割を超え、以下、「(ア) 節電に努めている」(87.5%)が約9割、「(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」(85.4%)と「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」(84.1%)が8割台半ばで続く。

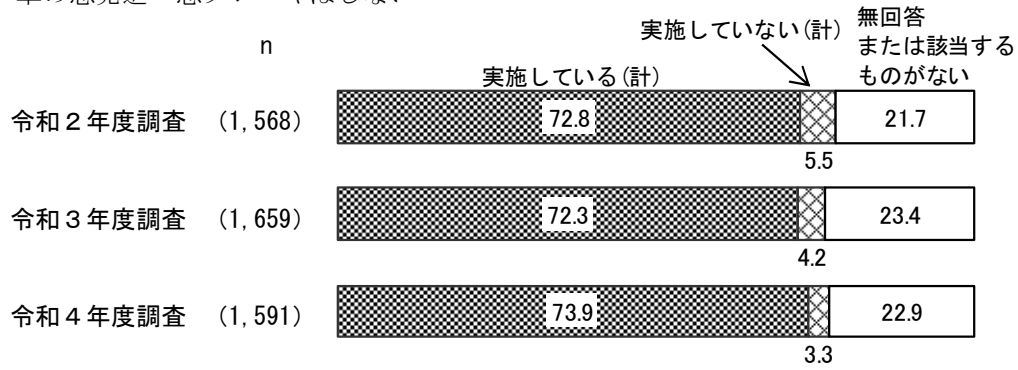
一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(29.2%)で約3割となっており、以下、「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」(13.9%)と「(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」(13.5%)が1割台半ばで続く。(図表1-23)

[参考] 令和 2 年度・3 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



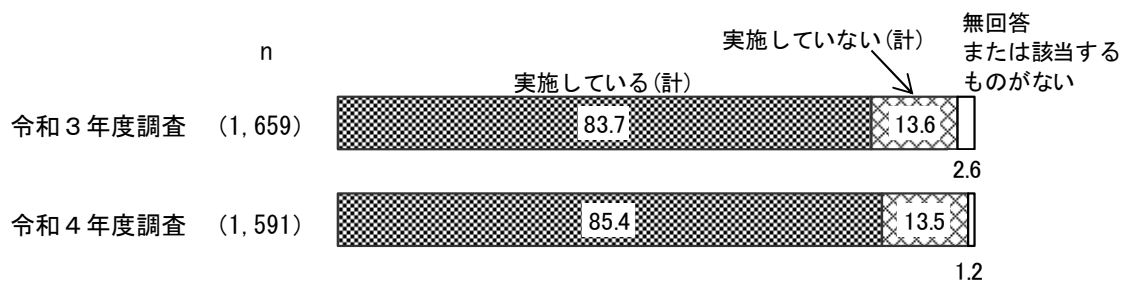
※令和 2 年度調査で「レジ袋をもらわない」の項目結果を参考に示した。

(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない



※令和2年度調査で「車の急発進・急加速はしない」の項目結果を参考に示した。

(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる



※「(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」は前回調査からの項目

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 節電に努めている」の『実施していない(計)』は“海匠地域”(28.2%)が約3割で高くなっている。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している(計)』は“印旛地域”(89.4%)が約9割で高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施していない(計)』は“山武地域”(43.8%)が4割台半ばで高くなっている。

「(エ) マイバッグの利用」の『実施している(計)』は“千葉地域”(95.8%)が9割台半ばで高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している(計)』は“印旛地域”(82.7%)が8割を超えて高くなっている。

「(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」の『実施していない(計)』は“海匠地域”(28.2%)が約3割で高くなっている。(図表1-24)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 節電に努めている」の『実施している(計)』は男性の75歳以上(94.7%)、女性の70～74歳(94.3%)、女性の75歳以上(94.4%)が9割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は男性の20代(32.7%)が3割を超え、男性の30代(26.8%)が2割台半ば、男性の40代(21.4%)が2割を超えて高くなっている。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している(計)』は女性の65～69歳(96.2%)が9割台半ば、男性70～74歳(91.1%)と女性の70～74歳(91.8%)が9割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は男性の20代(30.6%)が3割、男性の30代(29.6%)が約3割、女性の20代(26.0%)が2割台半ば、男性の40代(22.3%)が2割を超えて高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施している(計)』は女性の65～69歳(86.1%)が8割台半ば、男性の65～69歳(76.1%)と女性の70～74歳(75.4%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は男性の20代(59.2%)と女性の20代(57.5%)が約6割、男性の30代(40.8%)と女性の30代(40.2%)が4割で高くなっている。

「(エ) マイバッグの利用」の『実施している(計)』は女性の30代(98.0%)、女性の40代(97.6%)、女性の50代(97.8%)、女性の65～69歳(98.7%)、女性の70～74歳(98.4%)が約10割で高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している(計)』は男性の65～69歳(92.5%)が9割を超え、男性の60～64歳(89.1%)が約9割、男性の70～74歳(86.1%)が8割台半ば、女性の50代(83.2%)が8割を超えて高くなっている。

「(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」の『実施している(計)』は女性の65～69歳(93.7%)が9割台半ばで高くなっている。

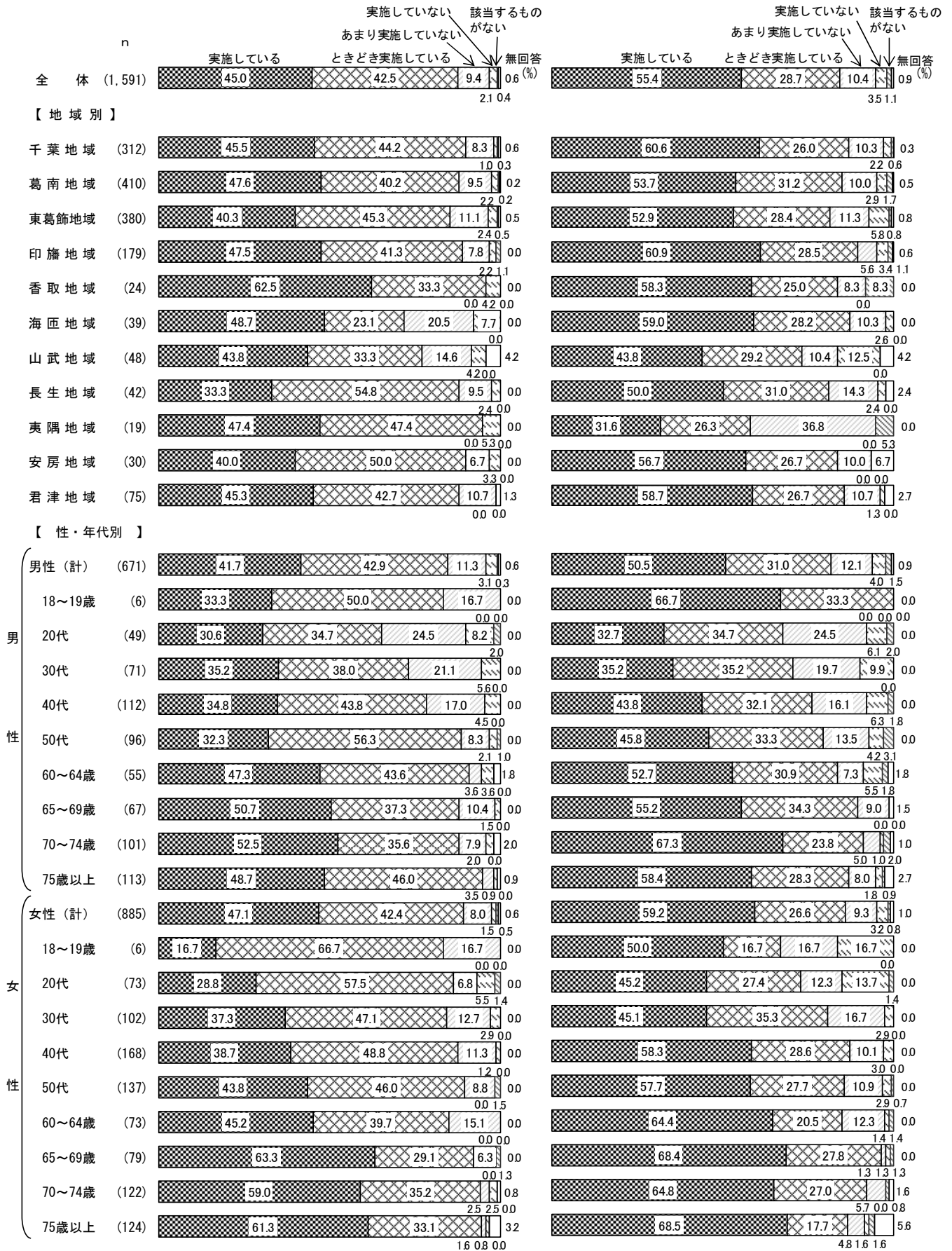
一方、『実施していない(計)』は男性の40代(25.9%)が2割台半ばで高くなっている。

(図表1-24)

<図表1-24> 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況／地域別、性・年代別

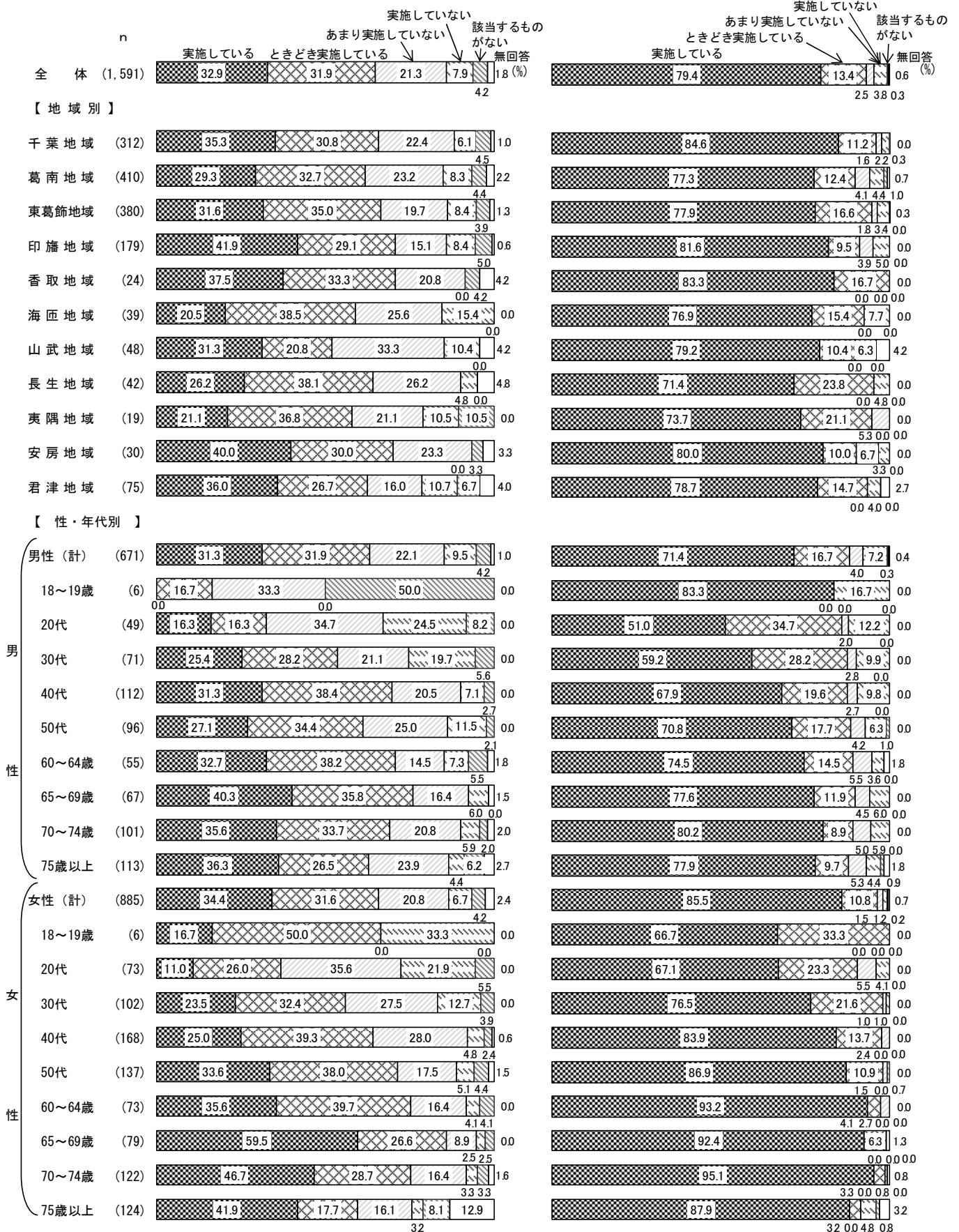
(ア) 節電に努めている

(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする

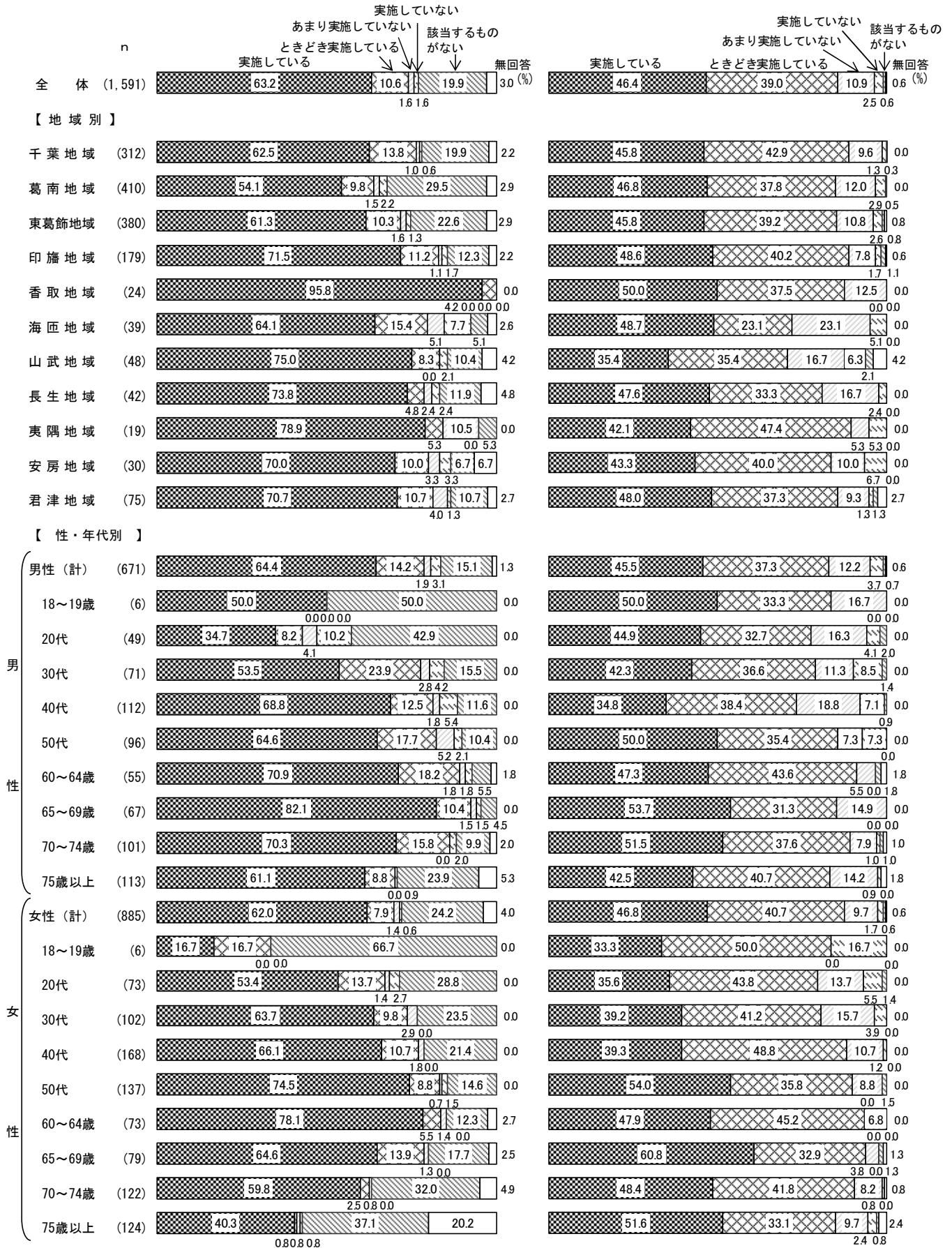


(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ

(エ) マイバッグの利用

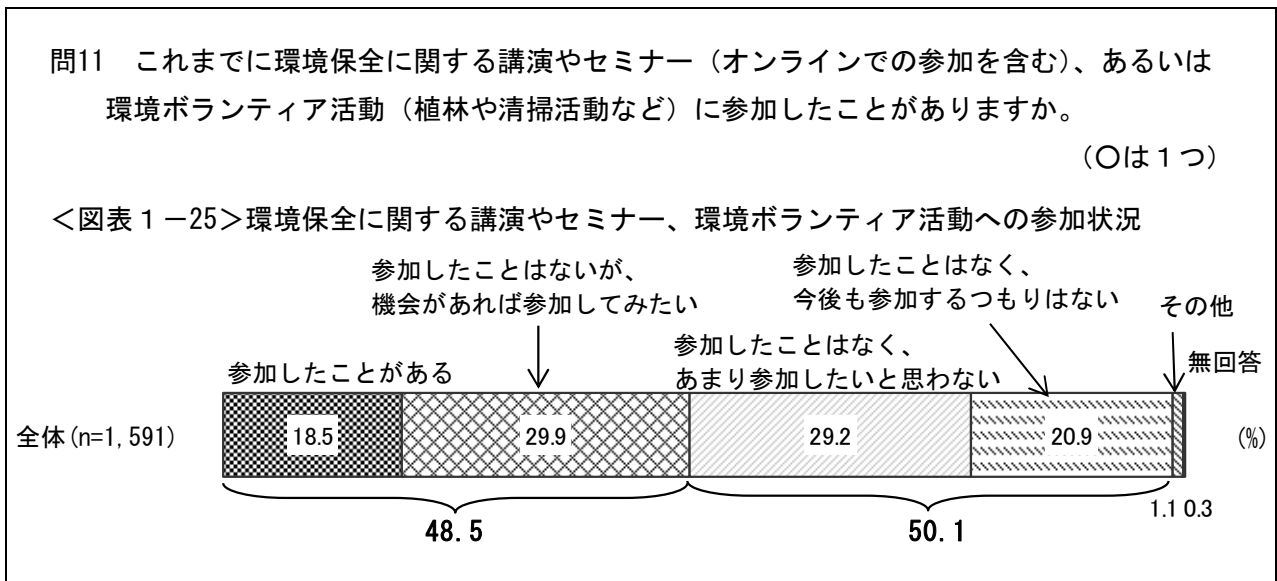


(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない (カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる



(11) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

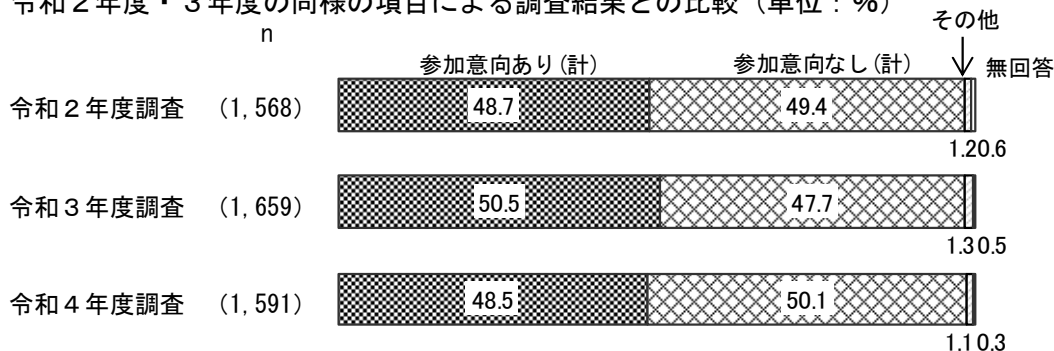
◇『参加意向あり（計）』が約 5 割



環境保全に関する講演やセミナー（オンライン参加含む）、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」（18.5%）が約 2 割となっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」（29.9%）を合わせた『参加意向あり（計）』（48.5%）が約 5 割となっている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」（29.2%）と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」（20.9%）を合わせた『参加意向なし（計）』（50.1%）が 5 割となっている。（図表 1-25）

【参考】 令和 2 年度・3 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



(※) 令和 2 年度調査で、「これまでに県・市町村などの行政や民間団体などが実施する環境保全に関する講演やセミナー、あるいは植林や清掃活動などの環境ボランティア活動などに参加したことがありますか。（○は 1 つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、『参加意向あり（計）』は“君津地域”（61.3%）が 6 割を超えて高くなっている。（図表 1-26）

【性・年代別】

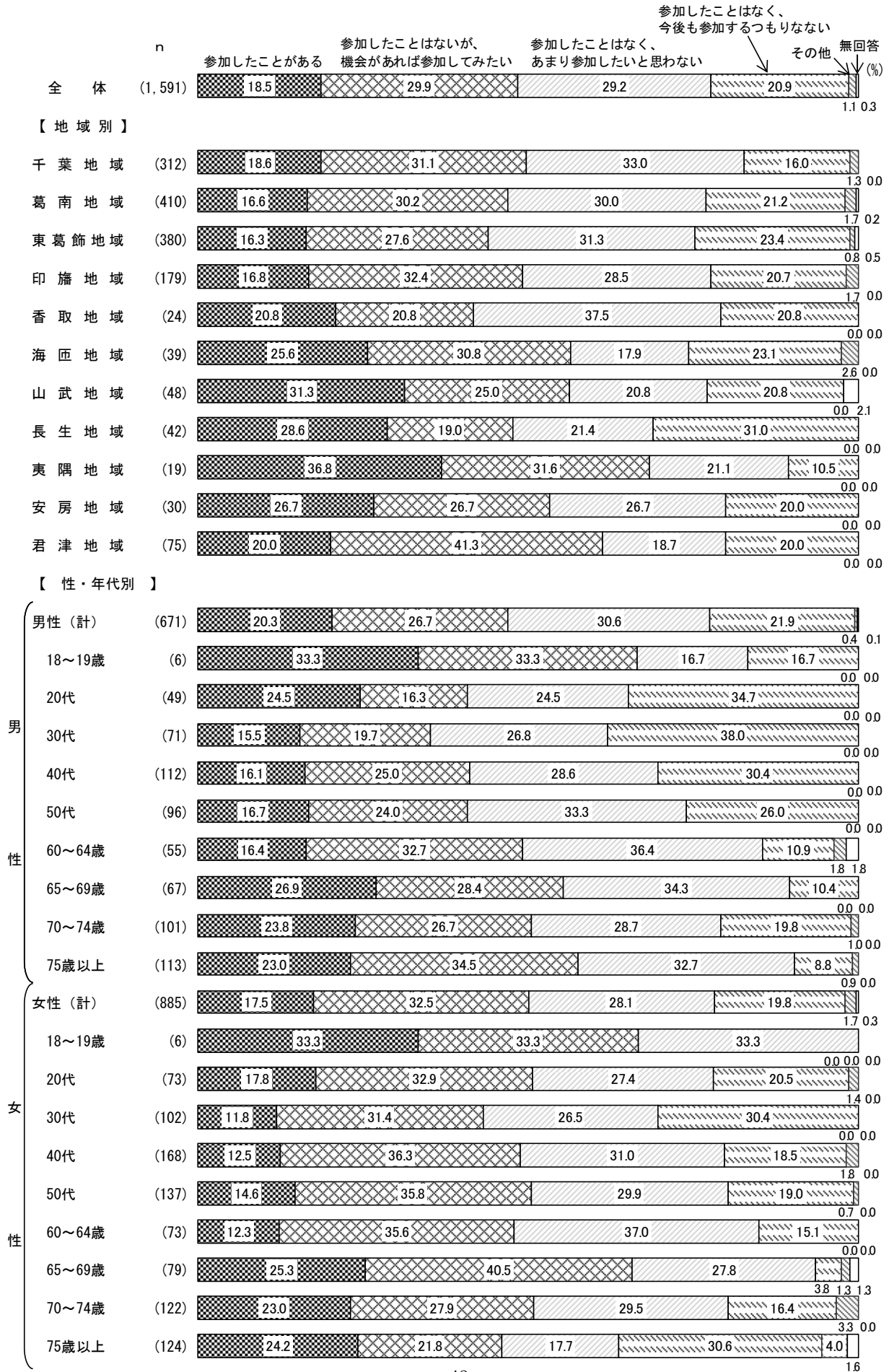
性・年代別にみると、『参加意向あり（計）』は女性の 65～69 歳（65.8%）が 6 割台半ば、男性の 75 歳以上（57.5%）が約 6 割で高くなっている。

一方、『参加意向なし（計）』は男性の 30 代（64.8%）が 6 割台半ばで高くなっている。

（図表 1-26）

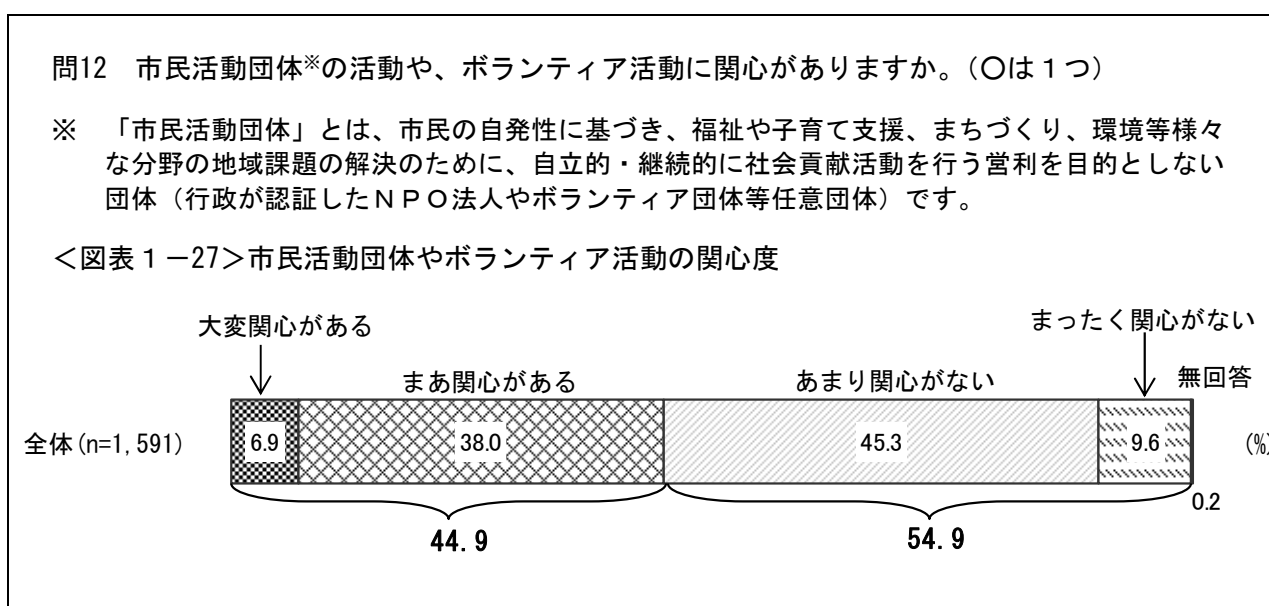
<図表1-26>環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

／地域別、性・年代別



(12) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

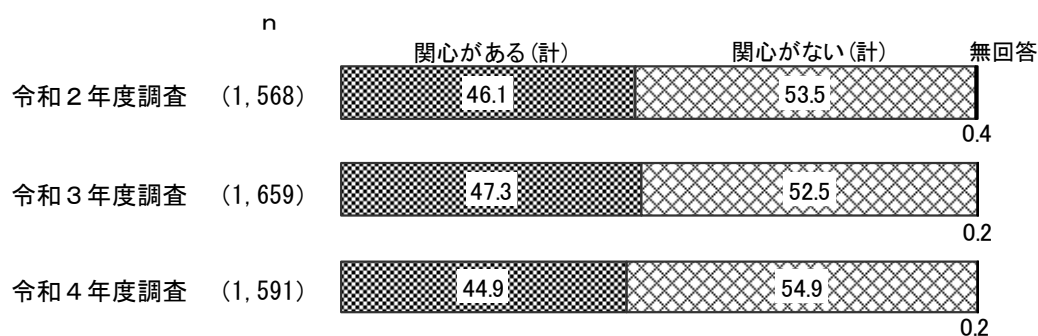
◇『関心がある（計）』が 4 割台半ば



市民活動団体の活動や、ボランティア活動への関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(6.9%)と「まあ関心がある」(38.0%)を合わせた『関心がある（計）』(44.9%)が4割台半ばとなっている。

一方、「あまり関心がない」(45.3%)と「まったく関心がない」(9.6%)を合わせた『関心がない（計）』(54.9%)が5割台半ばとなっている。(図表 1-27)

【参考】令和2年度・3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



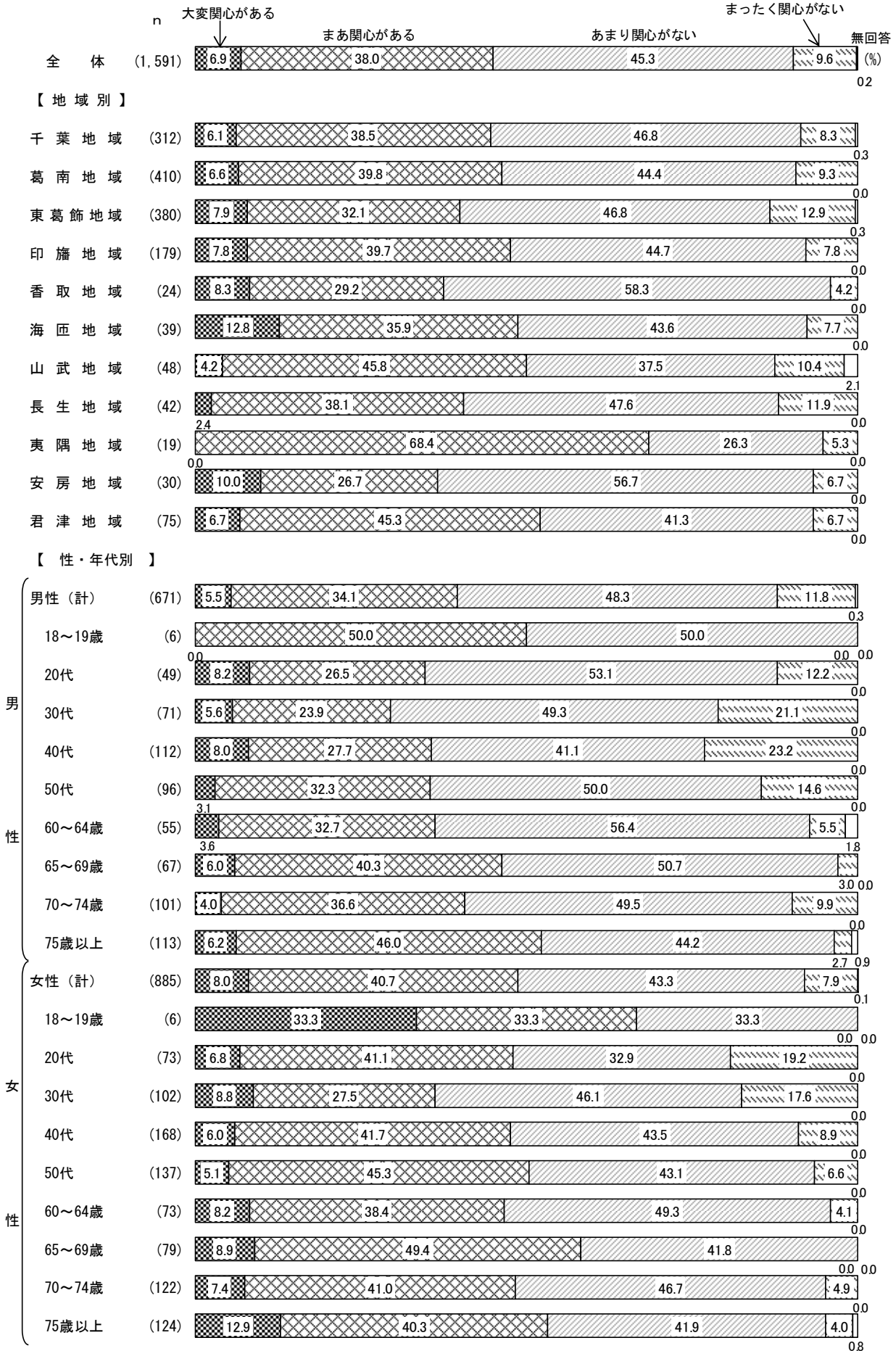
【地域別】

地域別にみると、『関心がない（計）』は“東葛飾地域” (59.7%) が約 6 割で高くなっている。(図表 1-28)

【性・年代別】

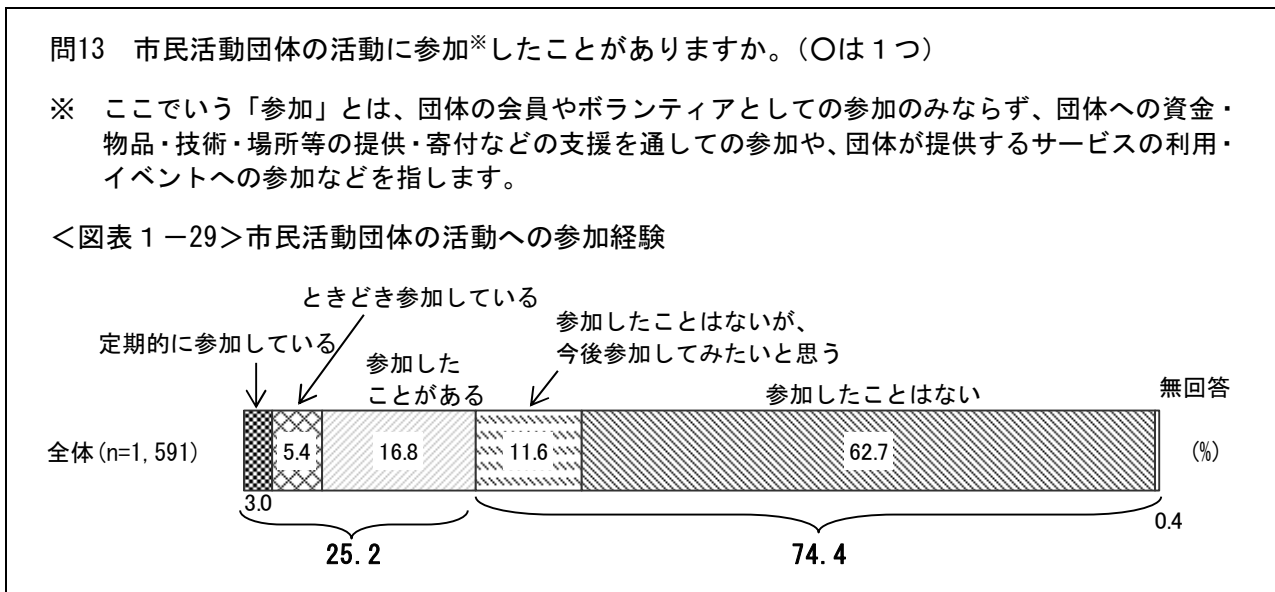
性・年代別にみると、『関心がある（計）』は女性の65～69歳 (58.2%) が約 6 割で高くなっている。一方、『関心がない（計）』は男性の30代 (70.4%) が 7 割、男性の40代 (64.3%) と男性の50代 (64.6%) が 6 割台半ばで高くなっている。(図表 1-28)

<図表1-28> 市民活動団体やボランティア活動の関心度／地域別、性・年代別



(13) 市民活動団体の活動への参加経験

◇『参加したことがある（計）』が2割台半ば

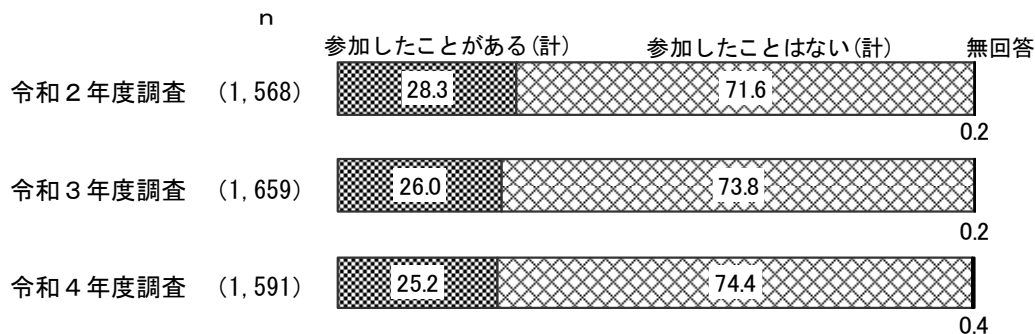


市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(3.0%)、「ときどき参加している」(5.4%)、「参加したことがある」(16.8%)の3つを合わせた『参加したことがある(計)』(25.2%)が2割台半ばとなっている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(11.6%)と「参加したことはない」(62.7%)を合わせた『参加したことはない(計)』(74.4%)が7割台半ばとなっている。

(図表 1-29)

【参考】令和2年度・3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

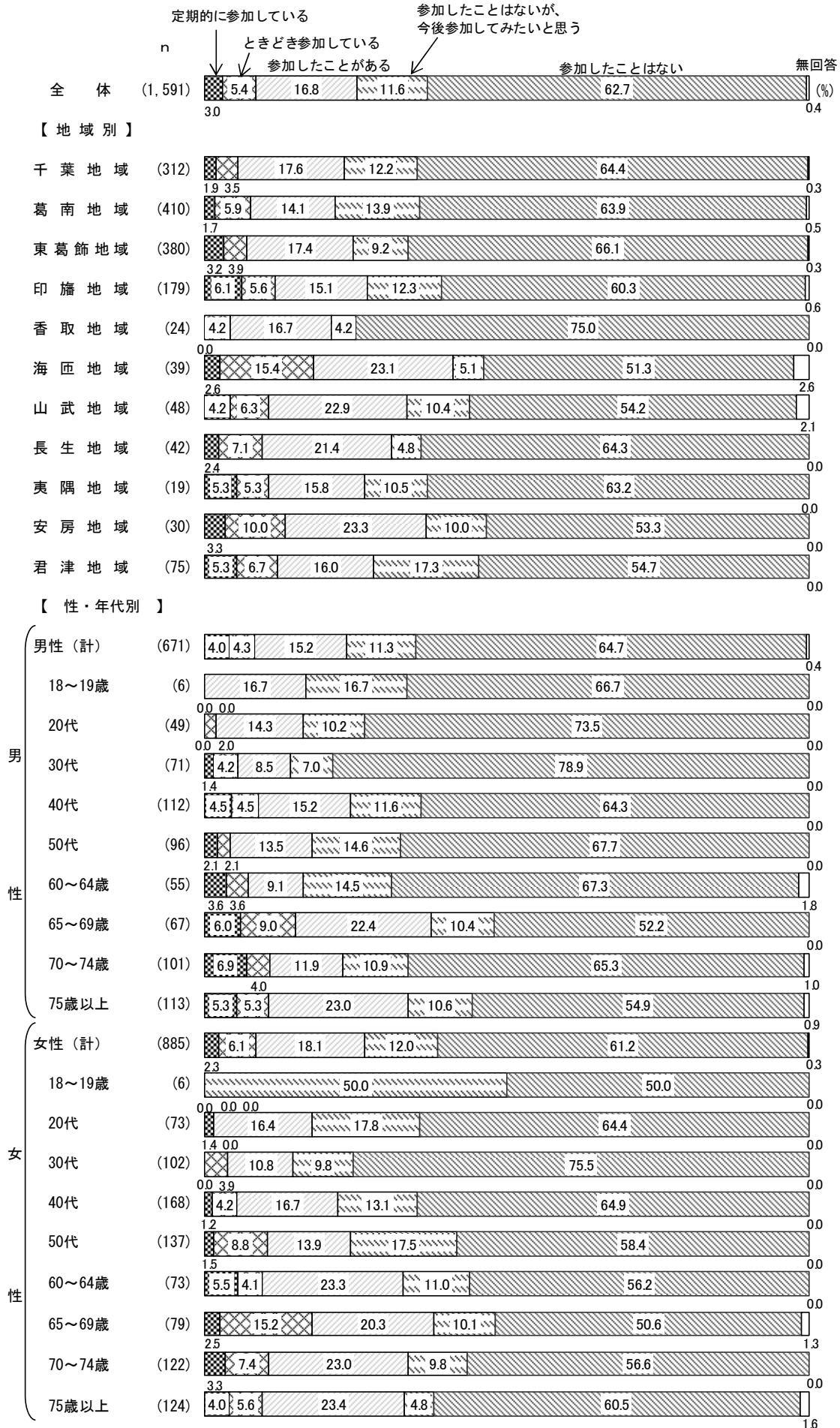
地域別にみると、『参加したことがある(計)』は“海匠地域”(41.0%)が4割を超えて高くなっている。(図表 1-30)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加したことがある(計)』は男性の65～69歳(37.3%)と女性の65～69歳(38.0%)が約4割、男性の75歳以上(33.6%)、女性の70～74歳(33.6%)が3割台半ば、女性の75歳以上(33.1%)が3割を超えて高くなっている。

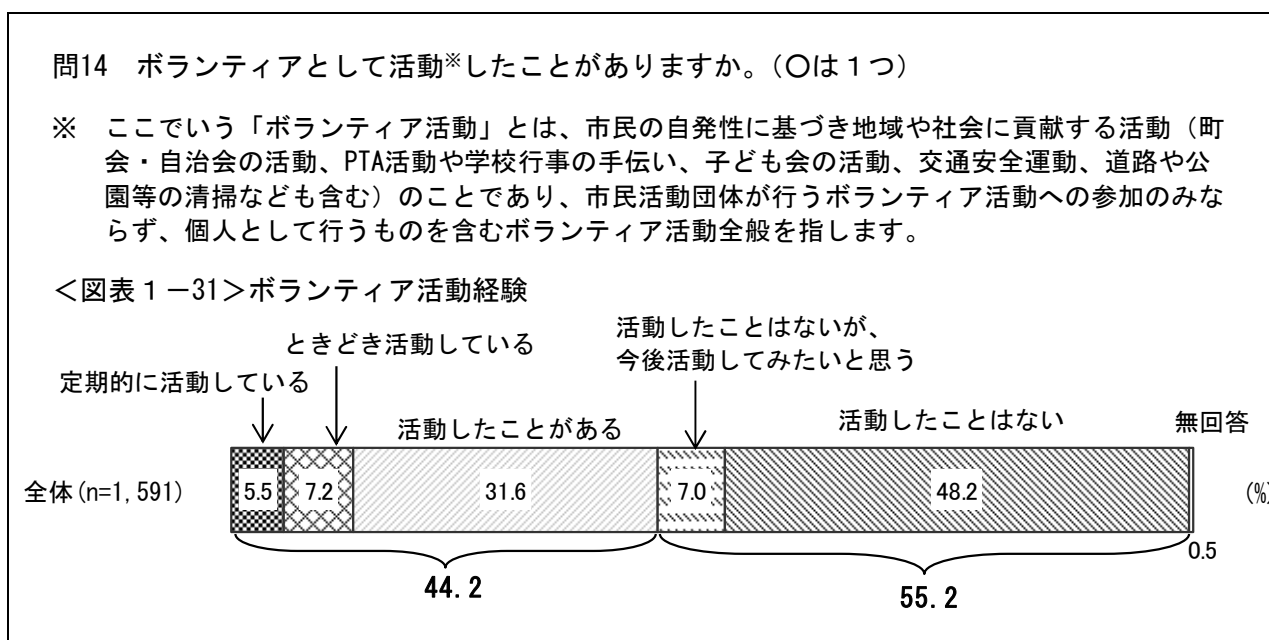
一方、『参加したことはない(計)』は男性の30代(85.9%)と女性の30代(85.3%)が8割台半ばで高くなっている。(図表 1-30)

<図表1-30>市民活動団体の活動への参加経験／地域別、性・年代別



(14) ボランティア活動経験

◇『活動したことがある（計）』が4割台半ば

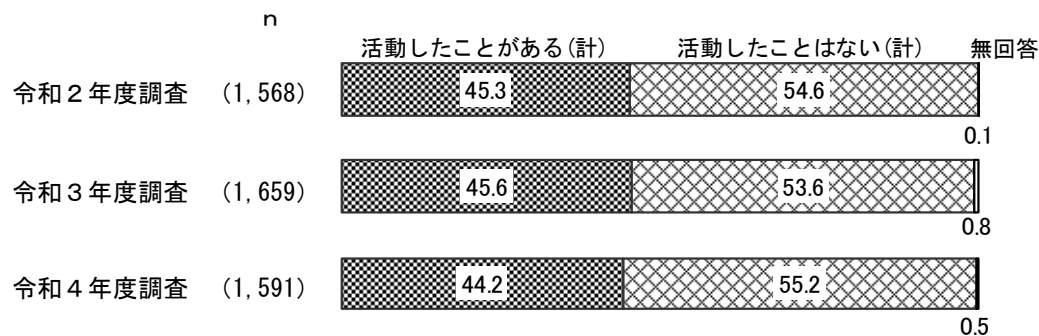


ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的活動中」(5.5%)、「時々活動中」(7.2%)、「活動したことがある」(31.6%)の3つを合わせた『活動したことがある(計)』(44.2%)が4割台半ばとなっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(7.0%)と「活動したことはない」(48.2%)を合わせた『活動したことはない(計)』(55.2%)が5割台半ばとなっている。

(図表 1-31)

〔参考〕令和2年度・3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

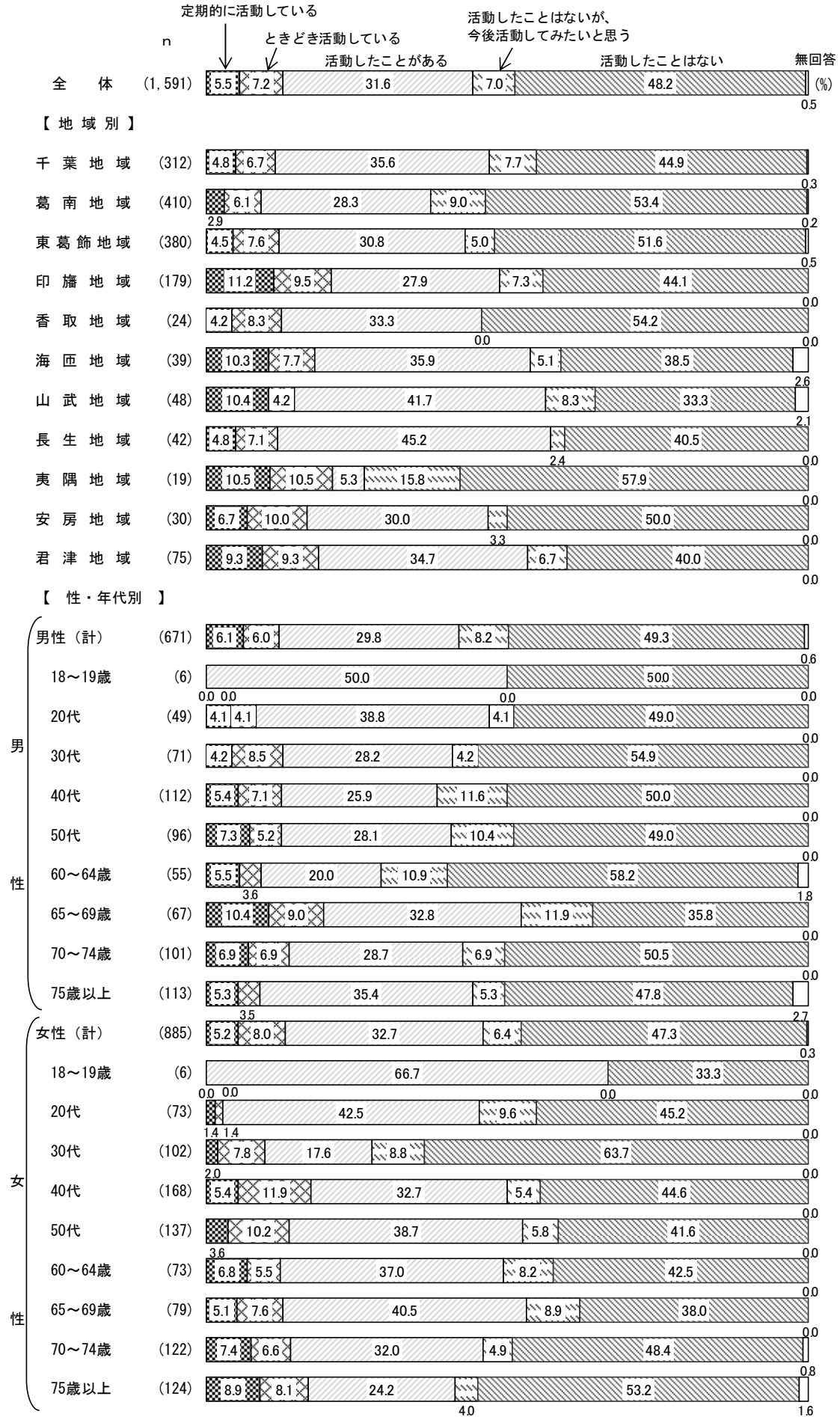
地域別にみると、『活動したことはない(計)』は“葛南地域”(62.4%)が6割を超えて高くなっている。(図表 1-32)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『活動したことがある(計)』は女性の50代(52.6%)が5割を超えて高くなっている。

一方、『活動したことはない(計)』は女性の30代(72.5%)が7割を超え、男性の60~64歳(69.1%)が約7割で高くなっている。(図表 1-32)

<図表1-32> ボランティア活動経験／地域別、性・年代別



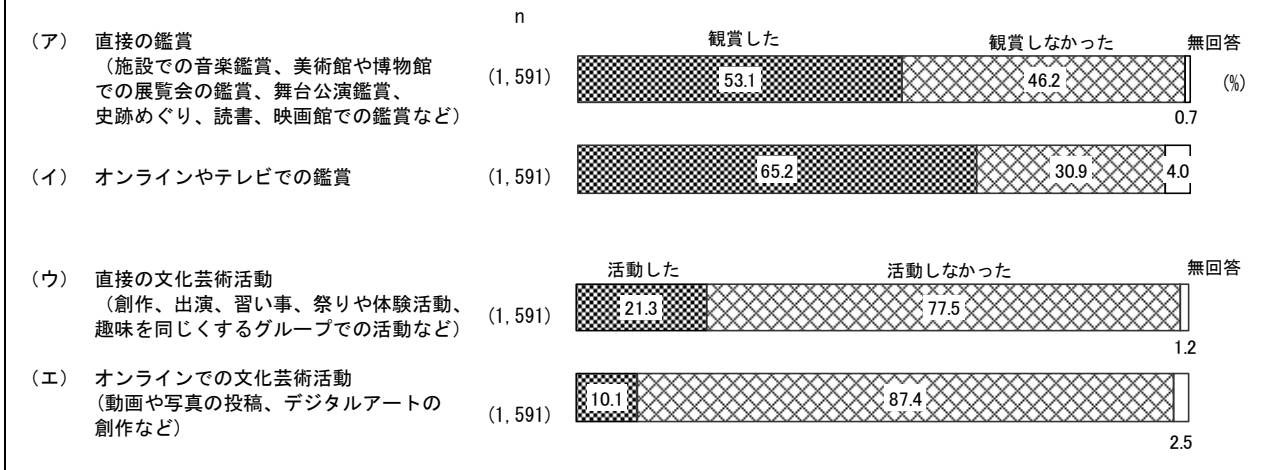
(15) この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験

◇鑑賞は〈オンラインやテレビ〉が 6 割台半ば、活動は〈直接〉が 2 割を超える

問15 あなたは、この 1 年間に、文化芸術※を鑑賞しましたか。また、鑑賞を除く文化芸術活動をしましたか。（○はそれぞれ 1 つずつ）

※ 「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（全てのジャンル）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道・書道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財などを指します。

<図表 1-33> この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験



この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験を聞いたところ、鑑賞については「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」(65.2%) が 6 割台半ば、「(ア) 直接の鑑賞」(53.1%) が 5 割を超えており、(ア) か (イ) いずれか、又はその両方を通じて鑑賞した県民の割合は 74.0% となった。

活動については「(ウ) 直接の文化芸術活動」(21.3%) が 2 割を超え、「(エ) オンラインやテレビでの文化芸術活動」(10.1%) が 1 割となっており (図表 1-33)、(ウ) か (エ) いずれか、又はその両方を通じて活動した県民の割合は 24.3% となった。

【地域別】

地域別にみると、鑑賞については「(ア) 直接の鑑賞」は“葛南地域”（57.6%）が約6割で高くなっている。

「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」は大きな傾向の違いはみられない。

活動については「(ウ) 直接の文化芸術活動」は“千葉地域”（25.6%）が2割台半ばで高くなっている。

「(エ) オンラインでの文化芸術活動は大きな傾向の違いはみられない。（図表1-34）

【性・年代別】

性・年代別にみると、鑑賞については「(ア) 直接の鑑賞」は男性の20代（75.5%）と女性の20代（75.3%）が7割台半ば、女性の40代（69.6%）が約7割、男性の40代（64.3%）が6割台半ばで高くなっている。

「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」は女性の40代（81.0%）が8割を超え、女性の20代（80.8%）が8割、男性の30代（78.9%）が約8割、男性の40代（75.9%）が7割台半ばで高くなっている。

活動については「(ウ) 直接の文化芸術活動」は女性の20代（41.1%）が4割を超え、男性の20代（34.7%）が3割台半ばで高くなっている。

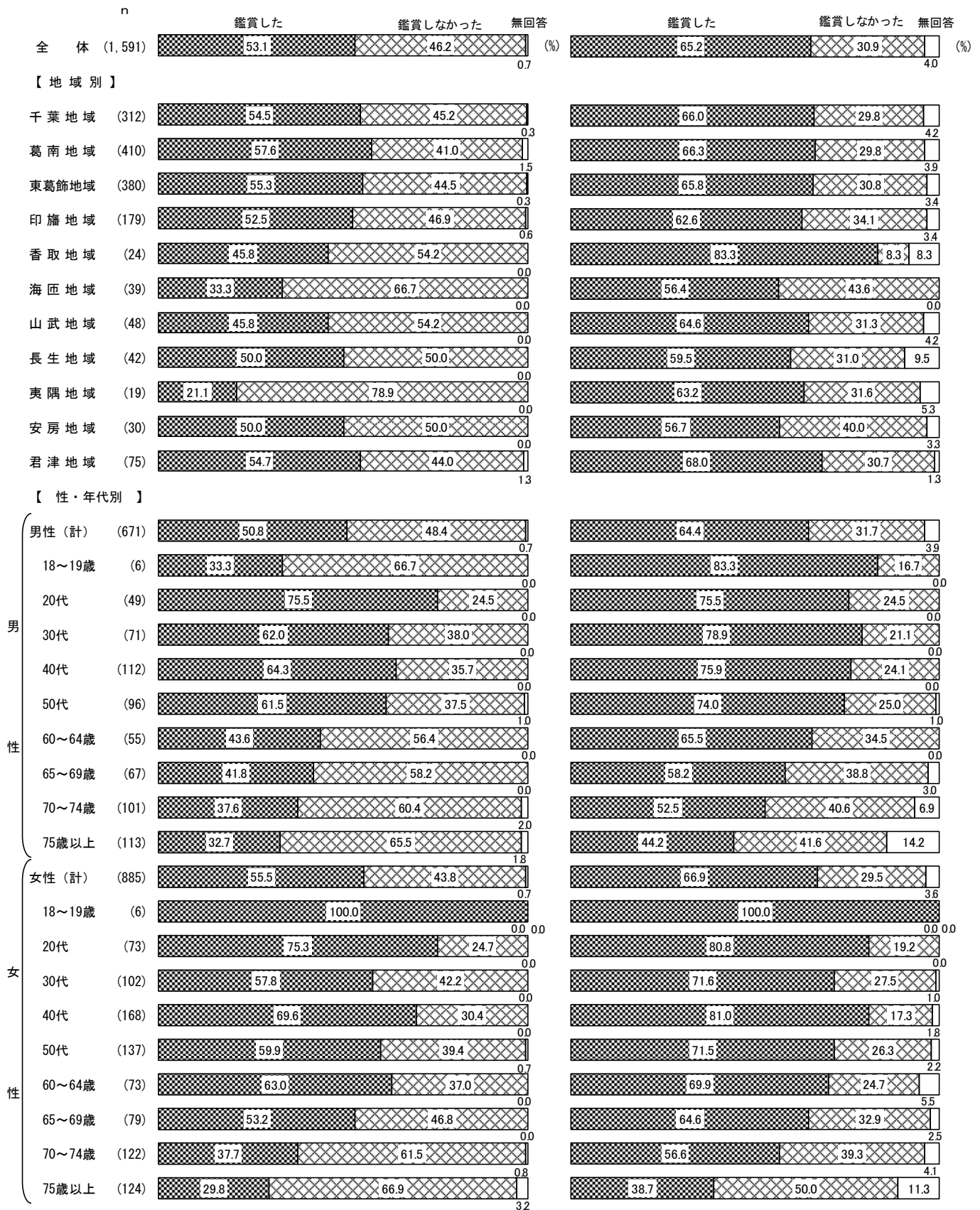
「(エ) オンラインでの文化芸術活動」は女性の20代（31.5%）が3割を超え、男性の20代（26.5%）が2割台半ば、女性の30代（19.6%）が約2割で高くなっている。（図表1-34）

<図表 1-34>この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験／地域別、性・年代別

(ア) 直接の鑑賞

(イ) オンラインやテレビでの鑑賞

(施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での
展覧会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、
読書、映画館での鑑賞など)

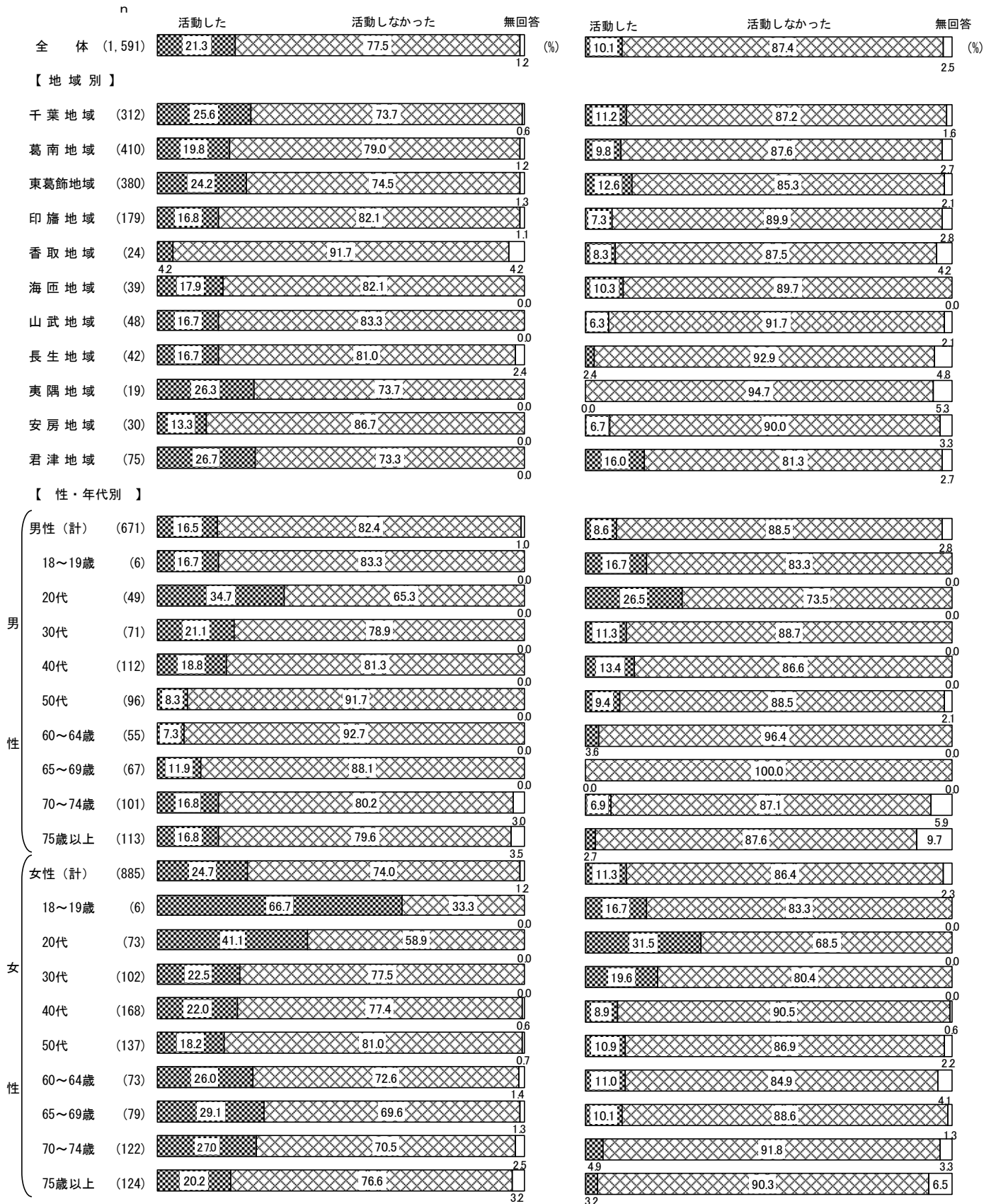


(ウ) 直接の文化芸術活動

(創作、出演、習い事、祭りや体験活動、
趣味を同じくするグループでの活動など)

(エ) オンラインでの文化芸術活動

(動画や写真の投稿、デジタルアートの
創作など)



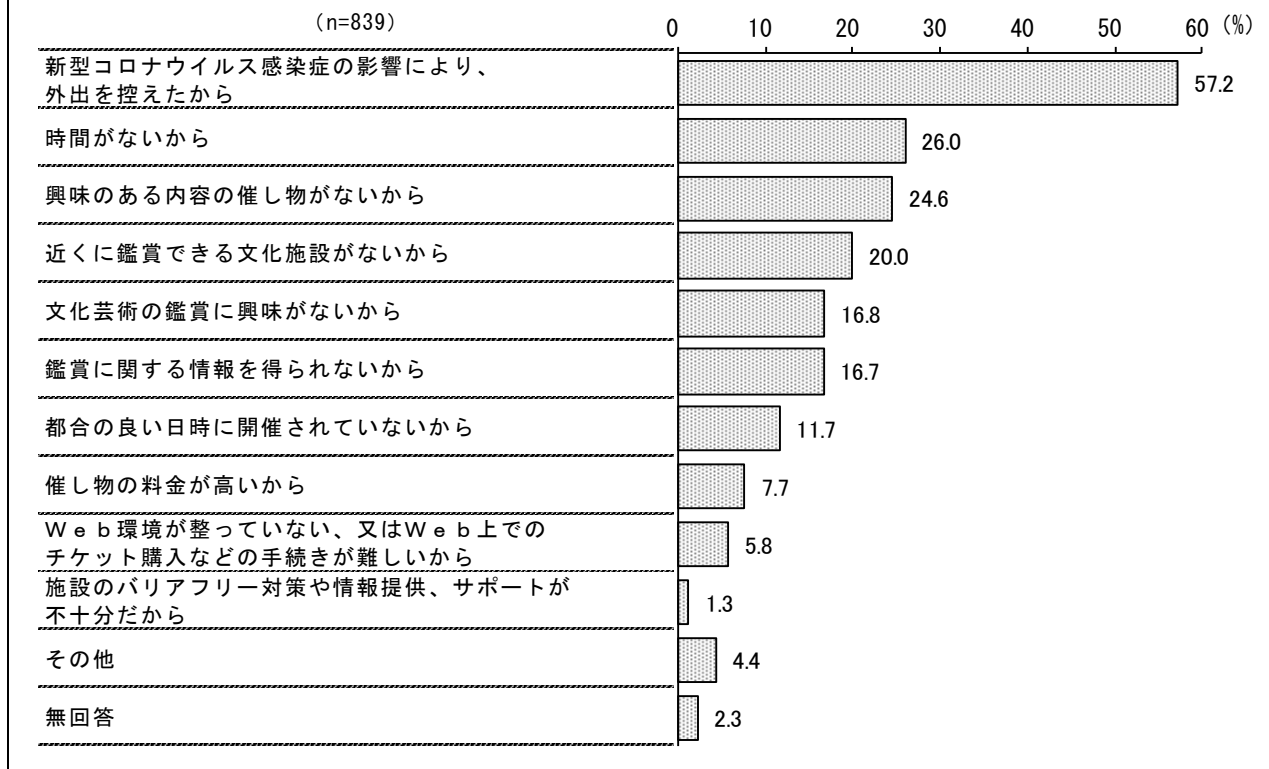
（15－1）文化芸術を鑑賞しなかった理由

◇「新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を控えたから」が約6割

（問15（ア）（イ）のいずれかで「鑑賞しなかった」をお答えの方に）

問15－1 「鑑賞しなかった」とお答えの主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表 1－35＞文化芸術を鑑賞しなかった理由（複数回答）



この1年間の文化芸術の鑑賞について、直接またはオンラインやテレビで鑑賞しなかったと回答した839人を対象に、鑑賞しなかった理由を聞いたところ、「新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を控えたから」(57.2%)が約6割で最も高く、以下、「時間がないから」(26.0%)、「興味のある内容の催し物がないから」(24.6%)、「近くに鑑賞できる文化施設がないから」(20.0%)が続く。(図表 1－35)

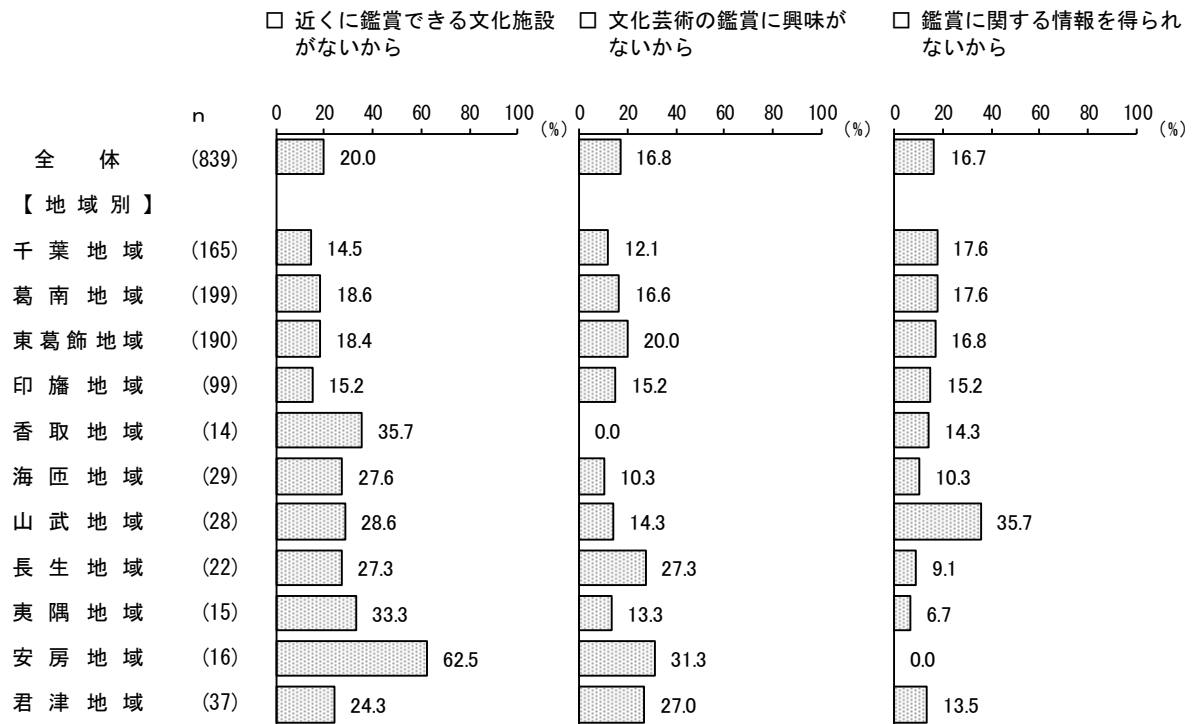
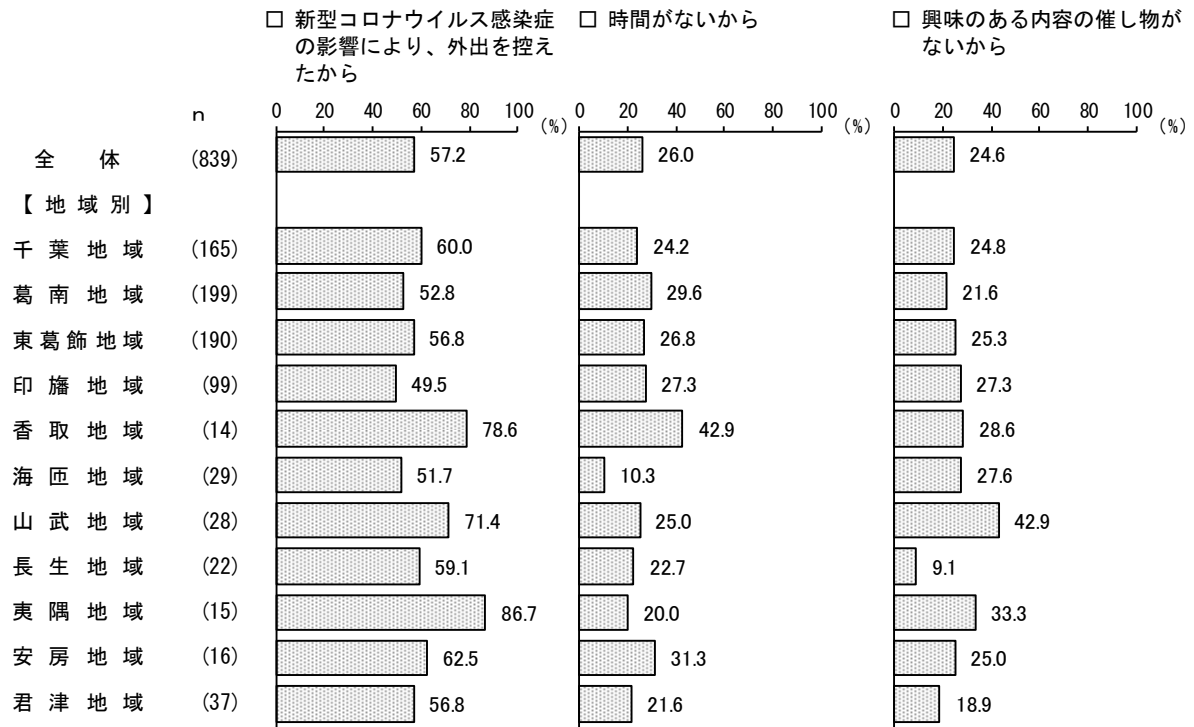
【地域別】

地域別にみると、は大きな傾向の違いはみられない。(図表 1－36)

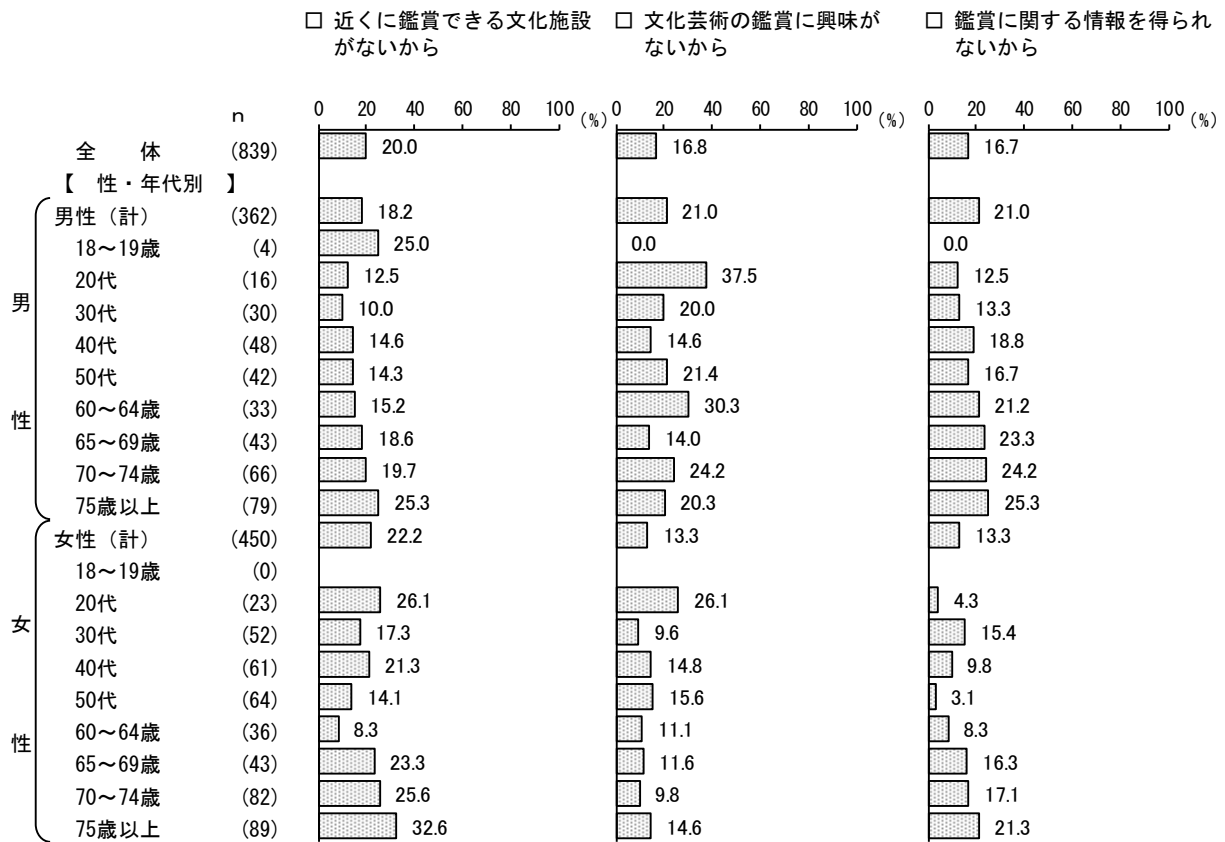
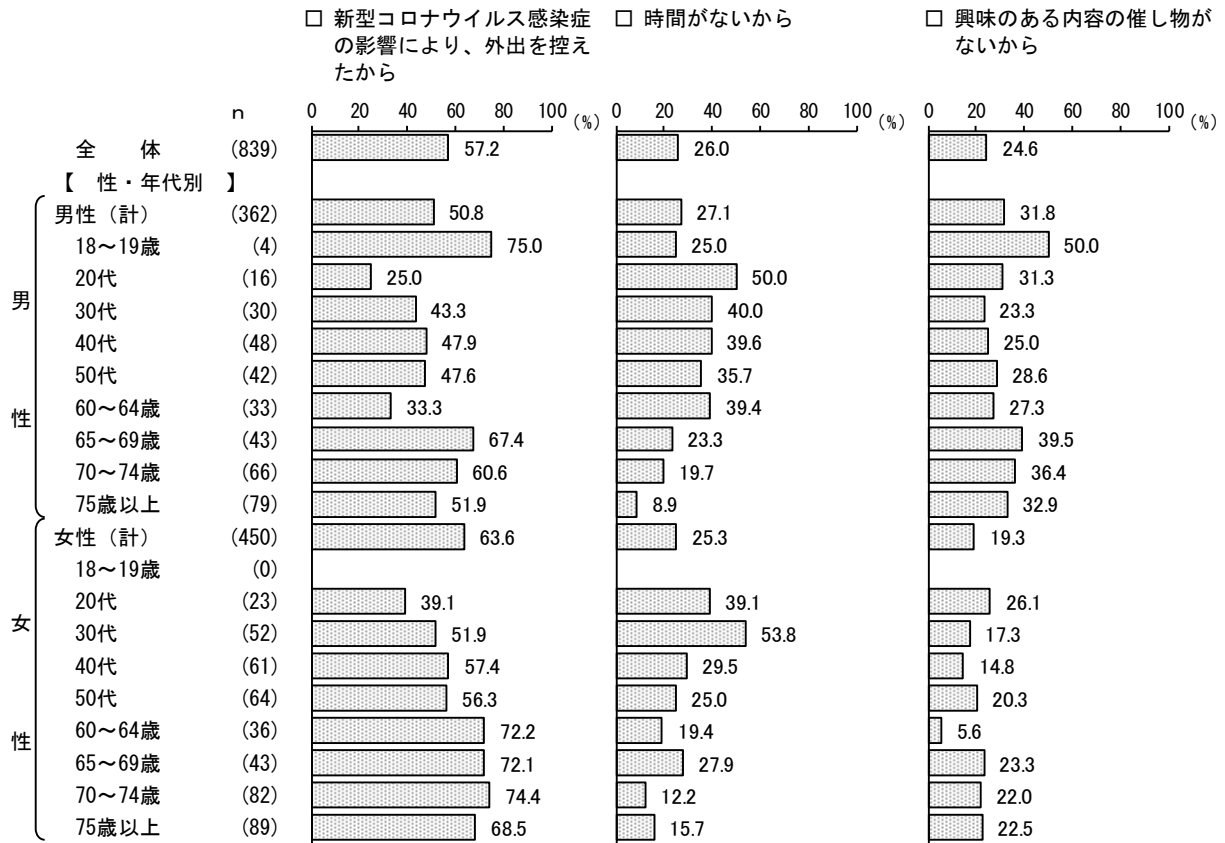
【性・年代別】

性・年代別にみると、「新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を控えたから」は女性の70～74歳(74.4%)が7割台半ば、女性の65～69歳(72.1%)が7割を超え、女性の75歳以上(68.5%)が約7割で高くなっている。「時間がないから」は女性の30代(53.8%)が5割台半ば、男性の40代(39.6%)が約4割で高くなっている。「興味のある内容の催し物がないから」は男性の65～69歳(39.5%)が約4割、男性の70～74歳(36.4%)が3割台半ばで高くなっている。(図表 1－36)

<図表1-36>文化芸術を鑑賞しなかった理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）

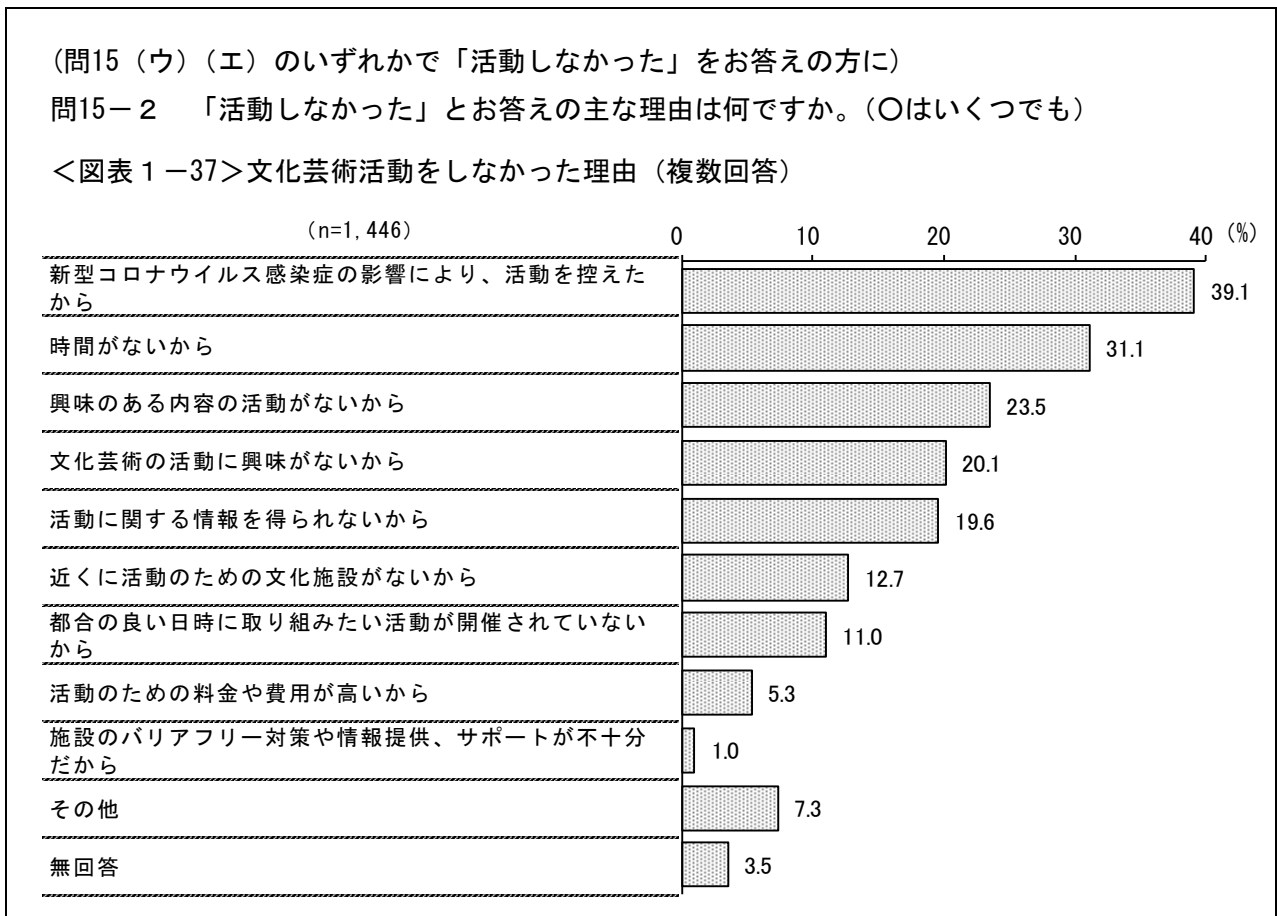


第 63 回県政に関する世論調査（R 4 年度）



(15-2) 文化芸術活動をしなかった理由

◇「新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を控えたから」が約4割



この1年間の文化芸術活動について、直接またはオンラインで活動しなかったと回答した1,446人を対象に、活動しなかった理由を聞いたところ、「新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を控えたから」(39.1%)が約4割で最も高く、以下、「時間がないから」(31.1%)、「興味のある内容の活動がないから」(23.5%)、「文化芸術の活動に興味がないから」(20.1%)、「活動に関する情報を得られないから」(19.6%)が続く。(図表1-37)

【地域別】

地域別にみると、は大きな傾向の違いはみられない。(図表1-38)

【性・年代別】

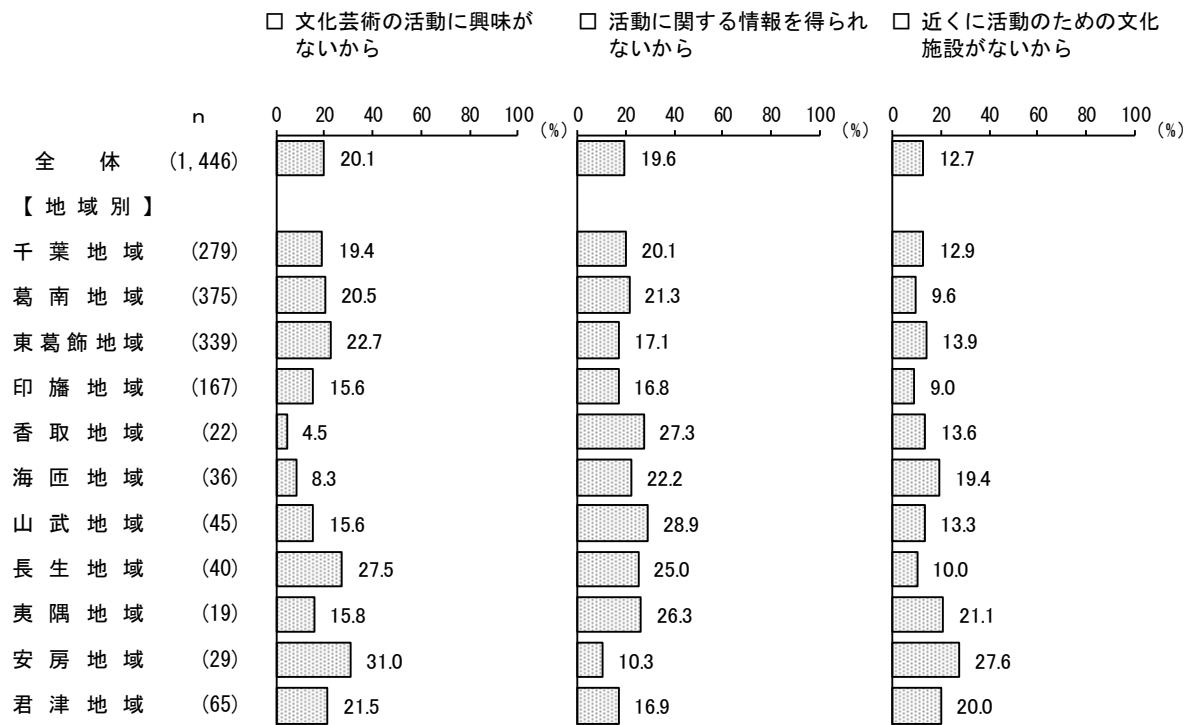
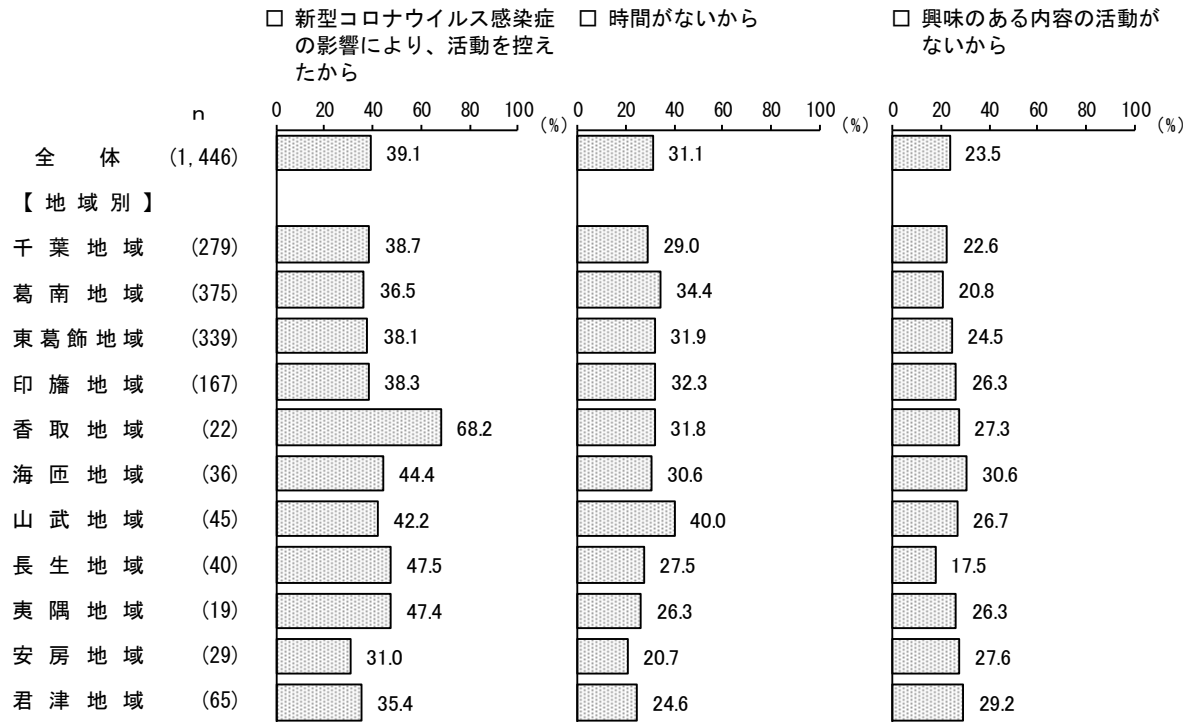
性・年代別にみると、「新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を控えたから」は男性の65～69歳(55.2%)が5割台半ば、女性の70～74歳(53.1%)が5割を超え、女性の75歳以上(49.1%)が約5割で高くなっている。

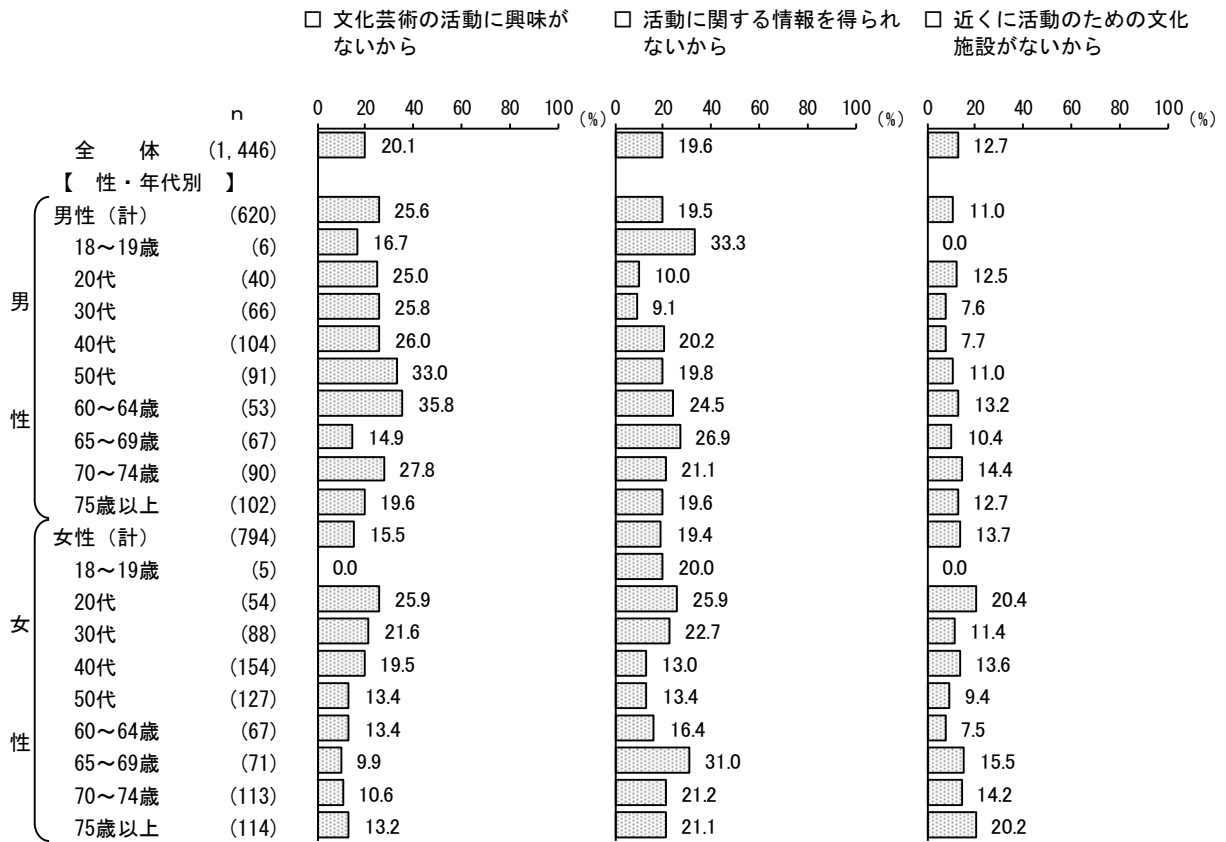
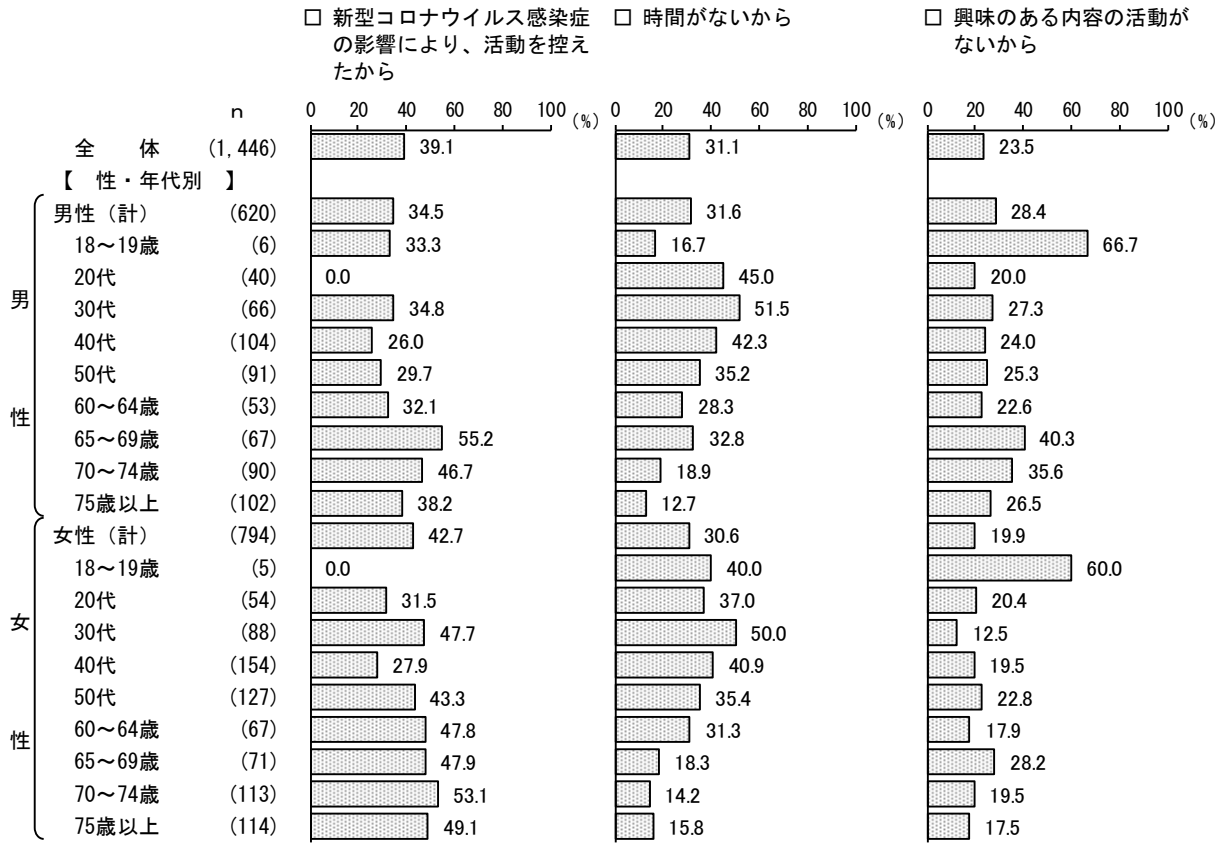
「時間がないから」は男性の30代(51.5%)が5割を超え、女性の30代(50.0%)が5割、男性の40代(42.3%)が4割を超え、女性の40代(40.9%)が4割で高くなっている。

「興味のある内容の活動がないから」は男性の65～69歳(40.3%)が4割、男性の70～74歳(35.6%)が3割台半ばで高くなっている。

「文化芸術の活動に興味がないから」は男性の60～64歳(35.8%)が3割台半ば、男性の50代(33.0%)が3割を超えて高くなっている。(図表1-38)

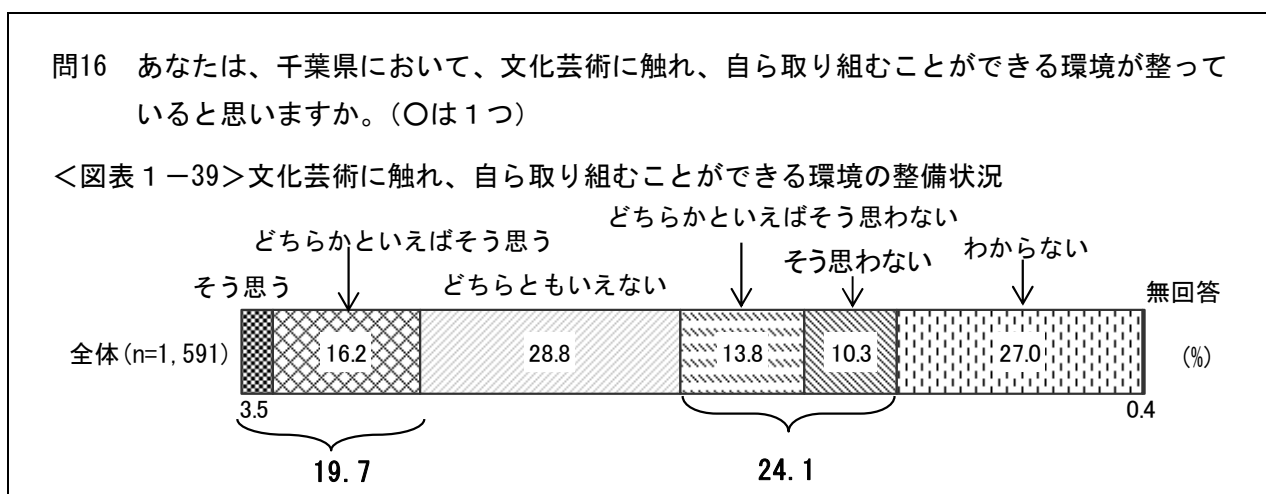
<図表 1-38>文化芸術活動をしなかった理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





(16) 文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境の整備状況

◇『そう思う（計）』が約 2 割



千葉県において、文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.5%)と「どちらかといえばそう思う」(16.2%)を合わせた『そう思う(計)』(19.7%)が約2割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(13.8%)と「そう思わない」(10.3%)を合わせた『そう思わない(計)』(24.1%)が2割台半ばとなっている。

また、「どちらともいえない」(28.8%)が約3割となっている。(図表 1-39)

【地域別】

地域別にみると、『そう思わない(計)』は“安房地域”(46.7%)が4割台半ばで高くなっている。
(図表 1-40)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は女性の40代(26.8%)が2割台半ばで高くなっている。
一方、『そう思わない(計)』は男性の65～69歳(35.8%)が3割台半ばで高くなっている。
(図表 1-40)

<図表1-40>文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境の整備状況／地域別、性・年代別

